

千葉県八千代市

# 市内遺跡発掘調査報告書

小板橋遺跡	j地点
殿内遺跡	f地点(2次)
殿内遺跡	g地点
麦丸宮前上遺跡	e地点
浅間内遺跡	c地点
大山遺跡	c地点
神久保寺台遺跡	c地点
持田遺跡	e地点
新林遺跡	h地点
高津宮ノ前遺跡	b地点
北裏畑遺跡	h地点
高津新山遺跡	e地点
新田台遺跡	a地点

平成30年度

八千代市教育委員会

# 例 言

1 本書は、八千代市教育委員会が平成29年度市内遺跡発掘調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。報告書の刊行は、平成30年度事業として行った。

2 本書に収録した遺跡は、以下のとおりである。

No	遺跡No	遺 跡 名 地点名	所 在 地	調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> ) 掘削/対象	調査原因	担当者
1	245	小板橋遺跡 j 地点	大和田字堀込256- 4,12,13,14,15,16,17	H29.6.1 ~6.6	上層 42/455.12	宅地造成	轟
2	203	殿内遺跡 f 地点 (2次)	村上字殿ノ内1571-1, 1572-4,5,1575-1	H29.6.5 ~6.12	上層 110.5/721.90	建売住宅建設	森
3	203	殿内遺跡 g 地点	村上1610-2,10	H29.10.10 ~10.18	上層 50/420.04	集合住宅建設	轟
4	153	麦丸宮前上遺跡 e 地点	麦丸字宮前1395-1, 1398-1の各一部	H29.6.12 ~6.28	上層 752/6,301.39	宅地造成	轟
5	204	浅間内遺跡 c 地点	村上南2丁目21-1	H29.6.15 ~6.19	上層 60/563.53	宅地造成	森
6	103	大山遺跡 c 地点	米本字大山2420-1,2,2421	H29.7.13 ~7.26	上層 176/1,904.04	集合住宅建設	轟
7	7	神久保寺台遺跡 c 地点	神久保字北ノ谷津 53-4,7,8,9, 字寺ノ台75-29	H29.7.31 ~8.9	上層 273/2,900.76	店舗建設	轟
8	200	持田遺跡 e 地点	村上字松葉1201,1203-1	H29.8.23 ~9.13	上層 387/2,278	宅地造成	轟
9	233	新林遺跡 h 地点	上高野1181-7,1183-2, 1162-2,3,1160-3	H29.8.28 ~9.8	上層 420/4,492	宅地造成	宮下
10	235	高津宮ノ前遺跡 b 地点	高津字大門438	H29.9.13 ~9.15	上層 50/495	宅地造成	轟
11	242	北裏畑遺跡 h 地点	萱田町字萱田道 826-1,827-8	H30.1.25 ~1.29	上層 72/704.12	建売住宅建設	森
12	239	高津新山遺跡 e 地点	高津東4丁目12-7の一部	H30.2.16 ~2.22	上層 41/480.43	建売住宅建設	森
13	146	新田台遺跡 a 地点	麦丸字新田台1013-1,5	H30.3.8 ~3.15	上層 96/792	宅地分譲	森

3 平成29年度における、本事業の調査体制は以下のとおりである。

調査主体者	加賀谷 孝	八千代市教育委員会 教育長
	大澤 紀子	八千代市教育委員会 教育次長
事務担当	蕨 茂美	八千代市教育委員会教育総務課 主幹 (文化財担当)
	宮澤 久史	八千代市教育委員会教育総務課文化財班 副主幹
	向後 喜紀	八千代市教育委員会教育総務課文化財班 主査補
調査担当	森 竜哉	八千代市教育委員会教育総務課文化財班 副主幹
	宮下 聡史	八千代市教育委員会教育総務課文化財班 主任文化財主事
	轟 直行	八千代市教育委員会教育総務課文化財班 文化財主事

整理担当 秋山 利光 八千代市教育委員会教育総務課文化財班 主任主事

4 整理作業は、調査時の基礎整理、資料の収集・整理、出土土器の拓本・断面実測を宇都洋子、岩崎千代子、杵島由希、遺物の実測・トレース、遺物の写真、本文の執筆・編集を秋山が行った。

5 本書で使用した地形図等は、下記のとおりである。

(1)第1図 国土地理院 「佐倉」 1/50,000 (平成10年発行)

(2)各調査地点位置図 八千代市 「八千代都市計画基本図」 1/2,500 (平成22年撮影・平成24年修正) を加筆・修正した。各図は原図を正位置のまま使用し、常に図の真上方向を座標北とした。

(3)本書挿図中 第6, 9, 14, 17, 19, 25図中のトレンチ配置図は、調査担当者が調査終了時作成した図を加筆・修正し掲載した。

6 本書の地形図等の実測図における用例は、以下のとおりである。

(1)図面の縮尺は以下を基本とし、特に必要が生じた場合には、縮尺を変更した。

調査地点位置図 1/5,000 トレンチ配置図 1/200~1/1,000 土層断面図 1/80

(2)図中における標高は、調査時に用いた基準の精度に応じた有効桁で示した。

7 本書の遺物実測図における用例は、以下のとおりである。

(1)図面の縮尺は基本的に以下のとおりとした。ただし、必要に応じて変更した場合は図中に示した。

完形土器等実測図 1/4 土器拓影図・土製品実測図 1/3 石器・石製品実測図 1/2~1/4

(2)遺物実測図には挿図番号をゴシック体、遺物の注記内容を明朝体で挿図番号の後に表記した。注記は遺跡No, 地点名, 出土地点 (グリッド・トレンチ名+取上げNo等) を記している。

(3)図中の網掛けは以下のとおりとした。



8 表又は本文中の[ ]は現存値, ( )は推定復元値を表している。

また、本文第1表から第11表中の「報告書」の欄における「市内H○」の記載は、本市「市内遺跡調査報告書平成○年度」に掲載されていることを意味する。

9 本報告の発掘調査に伴う出土品及び図面、写真等の記録類は八千代市教育委員会で保管する。

# 目 次

例 言・目 次・挿図目次・表 目 次・図版目次

I 調査に至る経緯…………… 1

II 各調査の概要…………… 7

1. 小板橋遺跡 j 地点…………… 7

3. 殿内遺跡 g 地点…………… 13

5. 浅間内遺跡 c 地点…………… 21

7. 神久保寺台遺跡 c 地点…………… 28

9. 新林遺跡 h 地点…………… 35

11. 北裏畑遺跡 h 地点…………… 40

13. 新田台遺跡 a 地点…………… 45

2. 殿内遺跡 f 地点（2次確認調査）…………… 10

4. 麦丸宮前上遺跡 e 地点…………… 16

6. 大山遺跡 c 地点…………… 24

8. 持田遺跡 e 地点…………… 31

10. 高津宮ノ前遺跡 b 地点…………… 38

12. 高津新山遺跡 e 地点…………… 42

報告書抄録…………… 卷末

# 挿 図 目 次

第1図 平成29年度市内遺跡調査地点位置図…………… 6

第2図 小板橋遺跡 j 地点位置図…………… 7

第3図 j 地点トレンチ配置図・土層断面図…………… 8

第4図 殿内遺跡 f 地点2次確認調査区域・g 地点位置図…………… 10

第5図 f 地点2次確認調査トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物…………… 11

第6図 g 地点トレンチ配置図・土層断面図…………… 13

第7図 殿内遺跡 g 地点出土遺物…………… 14

第8図 麦丸宮前上遺跡 e 地点位置図…………… 16

第9図 e 地点トレンチ配置図・土層断面図…………… 17

第10図 麦丸宮前上遺跡 e 地点出土遺物…………… 18

第11図 浅間内遺跡 c 地点位置図…………… 21

第12図 c 地点トレンチ配置図・土層断面図…………… 22

第13図 大山遺跡 c 地点位置図…………… 24

第14図 c 地点トレンチ配置図・土層断面図…………… 25

第15図 大山遺跡 c 地点出土遺物…………… 26

第16図 神久保寺台遺跡 c 地点位置図…………… 28

第17図 c 地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物…………… 29

第18図 持田遺跡 e 地点位置図…………… 31

第19図 e 地点トレンチ配置図・石器出土状況・土層断面図…………… 32

第20図 持田遺跡 e 地点出土遺物…………… 33

第21図 新林遺跡 h 地点位置図…………… 35

第22図 h 地点トレンチ配置図・土層断面図…………… 36

第23図 新林遺跡 h 地点出土遺物…………… 36



第24図	高津宮ノ前遺跡 b 地点位置図	38
第25図	b 地点トレンチ配置図・土層断面図	39
第26図	北裏畑遺跡 h 地点位置図	40
第27図	h 地点トレンチ配置図・土層断面図	41
第28図	高津新山遺跡 e 地点位置図	42
第29図	e 地点トレンチ配置図・土層断面図	43
第30図	新田台遺跡 a 地点位置図	45
第31図	a 地点トレンチ配置図・土層断面図	46
第32図	新田台遺跡 a 地点出土遺物	46

## 表 目 次

第1表	小板橋遺跡の調査	7	第2表	殿内遺跡の調査	10
第3表	麦丸宮前上遺跡の調査	16	第4表	浅間内遺跡の調査	21
第5表	大山遺跡の調査	24	第6表	神久保寺台遺跡の調査	28
第7表	持田遺跡の調査	31	第8表	新林遺跡の調査	35
第9表	高津宮ノ前遺跡の調査	38	第10表	北裏畑遺跡の調査	40
第11表	高津新山遺跡の調査	42			

## 図 版 目 次

図版1	小板橋遺跡 j 地点	9	図版2	殿内遺跡 f 地点（2次確認調査）	12
図版3	殿内遺跡 g 地点	14・15	図版4	麦丸宮前上遺跡 e 地点	19・20
図版5	浅間内遺跡 c 地点	23	図版6	大山遺跡 c 地点	27
図版7	神久保寺台遺跡 c 地点	30	図版8	持田遺跡 e 地点	34
図版9	新林遺跡 h 地点	37	図版10	高津宮ノ前遺跡 b 地点	39
図版11	北裏畑遺跡 h 地点	41	図版12	高津新山遺跡 e 地点	44
図版13	新田台遺跡 a 地点	47			

# I 調査に至る経緯

八千代市は都心から東へ約30km, 千葉市の市街地中心部から北へ約13km, 千葉県の北西部地域で印旛沼西岸に位置する。市域は房総半島の内陸部にあり, 地形は平坦な下総台地とそれを樹枝状に開析する河川や谷津で形成されている。

市域の下総台地は, 三つの地形面で構成されている。下総上位面は台地全体に広く分布し, 最も上位に位置する。下総下位面は神崎川の両岸や新川の西岸, 旧印旛沼の南岸などに幅1～3kmの範囲で分布し, 中位に位置する。千葉段丘面は旧印旛沼の南岸, 神崎川の南岸, 桑納川の南岸, 新川の西岸, 高津川の南岸, 勝田川の両岸などにみられ, 複数の段丘面で構成される下位の段丘面群である。

市域の中央を南北に貫く新川(印旛放水路)は, 上流域では勝田川, 下流域ではかつて平戸川と呼ばれており, 本来, 印旛沼水系に属していた。千葉市の長沼から大日一带を水源とし, 南から北に流下し, その左岸から高津川(八千代1号幹線)・桑納川・神崎川が合流し, 平戸で流れを東に変え, 印旛沼に流れ込む。戦後, 大和田排水機場の完成と江戸時代から進められていた新川と花見川の開通により, 現在は印旛沼が増水した時に湖水を東京湾に流す放水路となっている。

市内を流れる河川は, 市域の台地を大きく大和田・睦・阿蘇の3つの区域に区分している。

本市における埋蔵文化財の保護は, 文化財保護法の規定に基づき, 千葉県教育委員会(以下「県教委」という。)と連携して実施してきた。とりわけ, 市域で行われる開発事業については, 「八千代市開発事業における事前協議の手続等に関する条例」および同条例施行規則に基づき, 『八千代市開発事業』の事前協議として, 八千代市教育委員会(以下「市教委」という。)が「埋蔵文化財の取り扱いについて(確認)」(以下「確認依頼」という。)の書面を受け, 開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地であるか, または, 現地踏査等により確認調査が必要と判断された場合に, 埋蔵文化財の範囲や時代・性格など包蔵地の内容を具体的に把握するため, 事業者や土地所有者等の承諾や協力を得て, 国庫及び県費の補助を受け「市内遺跡発掘調査事業」(以下「市内遺跡事業」という。)として確認調査を実施してきた。市教委は実施した調査の成果を基礎資料として, 埋蔵文化財の保護に努めてきた。

以下は, 平成29年度に実施した「市内遺跡事業」の各調査に至る経緯である。

## 1. 小坂橋遺跡 j 地点

平成29年4月28日, 中臺 光一氏から八千代市大和田字堀込256番4, 12, 13, 14, 15, 16, 17の面積455.12㎡に戸建住宅を建設することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は, 駐車場で周知の埋蔵文化財包蔵地(市遺跡No.(以下「市No.」という。)245 小坂橋遺跡)の区域内にあり, 近隣の調査でも古墳時代を中心とした遺構・遺物が検出されていた。そのため, 市教委は確認依頼地全域に対して, 文化財保護法(以下「法」という。)第93条第1項の規定による土木工事のための発掘届(以下「法第93条の届出」という。)及びその取扱いについての協議(以下「協議」という。)が必要である旨, 同年5月8日に回答した。この回答に基づく市教委と開発事業者との協議において, 事業継続の意向が確認されたため, 市内遺跡事業として確認調査(以下「確認調査」という。)を行うこととなった。

法第93条の届出は、同年4月28日付けで同氏から提出されていた。市教委は5月25日付けで法第99条第1項の規定による埋蔵文化財の発掘調査(以下「法第99条の発掘調査」という。)を県教委に報告し、準備の整った同年6月1日に調査を開始した。

## 2. 殿内遺跡 f 地点 (2次確認調査)

平成28年10月17日、川嶋 一永氏から八千代市村上字殿ノ内1571-1, 1572-1, 4, 5, 1575-1の公簿上の面積1,021.90㎡に宅地造成することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地は一部に既存建物があり、周知の埋蔵文化財包蔵地(市№203 殿内遺跡)の区域内で、隣接する区域の調査で古墳時代から奈良・平安時代の遺構・遺物が数多く検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年10月24日付け回答し、市教委と確認申請者及び開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

第1次確認調査は平成28年10月27日付けで、同氏から法第93条の届出が提出され、市教委が同年12月12日付けで、開発区域内に残る既存建物で調査ができない区域を除き、調査可能な確認地の一部、村上字殿ノ内1572-1の300㎡に対して、法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年12月13日から同月16日まで調査を行った。調査の結果、奈良・平安時代の竪穴建物跡2軒が検出され、65㎡が保存協議の対象区域となった。

翌平成29年度に入り、調査ができなかった区域の調査が可能となったため、市教委は残存区域殿ノ内1571-1, 1572-4, 5, 1575-1の面積721.90㎡に対して、平成29年5月31日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年6月5日に第2次確認調査を開始した。

## 3. 殿内遺跡 g 地点

平成29年8月31日、川島 智也氏から八千代市村上字大宮作1610-2, 10の面積420.04㎡に集合住宅の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は畑地で、周知の埋蔵文化財包蔵地(市№203 殿内遺跡)の区域内にあり、近隣の調査で古墳時代から奈良・平安時代の遺構・遺物が多く検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年9月8日付け回答した。この回答に基づく市教委と確認申請者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年9月15日付けで法第93条の届出が同氏から提出された。市教委は同年10月2日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年10月10日に調査を開始した。

## 4. 麦丸宮前上遺跡 e 地点

平成28年12月5日、日新住宅販売 株式会社から八千代市麦丸字宮前1395-1, 1398-1の各一部, 1399-2, 3の面積6,921.39㎡に宅地造成を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は畑地と荒蕪地で、周知の埋蔵文化財包蔵地(市№153 麦丸宮前上遺跡)の区域内にあり、周辺の調査で縄文土器の包蔵地や奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地の一部、麦丸字宮前1395-1, 1398-1の各一部の6,301.39㎡に対して、法第93条の届出及び協議が

必要である旨、同年12月21日付け回答した。この回答に基づく市教委と確認申請者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

法第93条の届出は、同年12月5日付けですでに同社から提出されていた。市教委は翌平成29年5月31日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年6月12日に調査を開始した。

#### 5. 浅間内遺跡c地点

平成28年12月6日、小林 光男氏から八千代市村上南2丁目21-1の面積563.53㎡に戸建住宅の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は、宅地で周知の埋蔵文化財包蔵地(市No204 浅間内遺跡)の区域内にあり、近隣の調査で弥生時代から奈良・平安時代にわたる集落などの遺構・遺物が多く検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年12月27日付け回答した。この回答に基づく市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

翌平成29年4月10日付けで法第93条の届出が同氏から提出された。市教委は同年6月7日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年6月15日に調査を開始した。

#### 6. 大山遺跡c地点

平成29年3月1日、鈴木 誠治氏から八千代市米本字大山2420-1, 2, 2421の面積1,904.03㎡に集合住宅の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

提出時において、確認地の現況は荒蕪地であったが、周知の埋蔵文化財包蔵地(市No103 大山遺跡)の区域内にあり、近隣の調査で弥生時代から奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年3月9日付けで回答した。この回答に基づく市教委と確認申請者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年6月2日付け、同氏から法第93条の届出が面積を1,904.04㎡に修正して提出された。市教委は同年7月4日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年7月13日に調査を開始した。

#### 7. 神久保寺台遺跡c地点

平成29年4月11日、万仁土地 株式会社から八千代市神久保字北ノ谷津53-4, 7, 8, 9, 字寺ノ台75-29の面積2,900.76㎡に店舗の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は、畑地もあったが、一部に砂利やコンクリートが敷かれていた。当該区域は周知の埋蔵文化財包蔵地(市No7 神久保寺台遺跡)の区域内にあり、隣接する区域の調査では弥生時代から奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されていた。また、中世の堀跡なども検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地の全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年4月17日付け回答した。この回答に基づく市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年6月23日付け、同社から法第93条の届出が提出された。市教委は同年7月26日付けで法第99条の発



掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年7月31日に調査を開始した。

#### 8. 持田遺跡 e 地点

平成29年6月22日、川島 範男氏から八千代市村上字松葉1201, 1203-1, 字境作1204, 1248-1の公図上の面積6,195㎡に宅地造成を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は畑地で、一部が周知の埋蔵文化財包蔵地(市№200 持田遺跡)の区域内にあり、周辺区域の調査で古墳時代から奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は境作1204, 1248-1の面積3,452㎡を包蔵地外とし確認依頼地の一部、村上字松葉1201, 1203-1の面積2,743㎡に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年7月4日付けで回答した。この回答に基づく市教委と確認申請者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年7月27日付け、同氏から法第93条の届出が調査対象区域の2,743㎡で提出された。市教委は同年8月21日付けで、対象区域の一部465㎡を調査除外地として、調査区域2,278㎡で法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年8月23日に調査を開始した。

#### 9. 新林遺跡 h 地点

平成29年7月3日、山下興産 株式会社から八千代市上高野字稲荷前1181-7, 1183-2, 1162-2, 3, 1160-3の公簿上の面積4,492㎡に宅地造成を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は畑地で、周知の埋蔵文化財包蔵地(市№233 新林遺跡)の区域内にあり、周辺区域の調査で縄文時代を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年7月7日付けで回答した。この回答に基づく市教委と確認申請者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

法第93条の届出は、同年7月4日付けですでに同社から提出されていた。市教委は同年8月18日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年8月28日に調査を開始した。

#### 10. 高津宮ノ前遺跡 b 地点

平成29年6月30日、株式会社 アーネストワンから八千代市高津字大門438の公簿上の面積499㎡に宅地造成を目的とした確認依頼が市教委に提出された。(提出書類の面積の記載が間違えており、同時に提出された登記事項証明書には495㎡と記載されていた。)

確認地の現況は畑地で、周知の埋蔵文化財包蔵地(市№235 高津宮ノ前遺跡)の区域内にあり、周辺区域の調査で遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年7月12日付けで回答した。この回答に基づく市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

法第93条の届出は、同年6月30日付けですでに同社から面積495㎡として提出されていた。市教委は同年9月5日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年9月13日調査を開始した。

#### 11. 北裏畑遺跡 h 地点

平成29年12月11日、島田 尚美氏から八千代市萱田町字萱田道826-1, 827-8の面積704.12㎡に宅地造成

することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は既存建物のある宅地で、周知の埋蔵文化財包蔵地(市No242 北裏畑遺跡)の区域内にあり、隣接する区域の調査で縄文時代等の遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年12月14日付けで回答した。この回答に基づく市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年12月19日付け、法第93条の届出が同氏から提出された。市教委は翌平成30年1月18日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年1月25日に調査を開始した。

## 12. 高津新山遺跡 e 地点

平成29年12月22日、株式会社 東栄住宅から八千代市高津東4丁目12-7の一部の面積480.43㎡に戸建住宅の建築を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は既存建築物のある宅地であったが、周知の埋蔵文化財包蔵地(市No239 高津新山遺跡)の区域内にあり、隣接する区域の調査で奈良・平安時代の集落を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年12月28日付けで回答した。この回答に基づく市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

翌平成30年1月22日付けで、同社から法第93条の届出が提出された。市教委は同年2月9日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年2月16日に調査を開始した。

## 13. 新田台遺跡 a 地点

平成30年1月15日、スターツピタットハウス 株式会社から八千代市麦丸字新田台1013-1、5の公簿上の面積792㎡に戸建住宅の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況はアスファルト舗装の駐車場で、周知の埋蔵文化財包蔵地(市No146 新田台遺跡)の区域内にあった。本跡域での調査ははじめてであった。市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年1月22日付けで回答した。この回答に基づく市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

平成30年1月27日付けで、株式会社アーネストワンに事業主体者を変更して法第93条の届出が提出された。市教委は同年3月5日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年3月8日に調査を開始した。

## 参考文献

杉原重夫(1970)「下総台地西部における地形の発達」『地理学評論43, 12』

佐々木茂ほか(1981)「八千代市の地形・地質」『八千代市文化財総合調査報告 I』







## Ⅱ 各調査の概要

### 1. 小板橋遺跡 j 地点

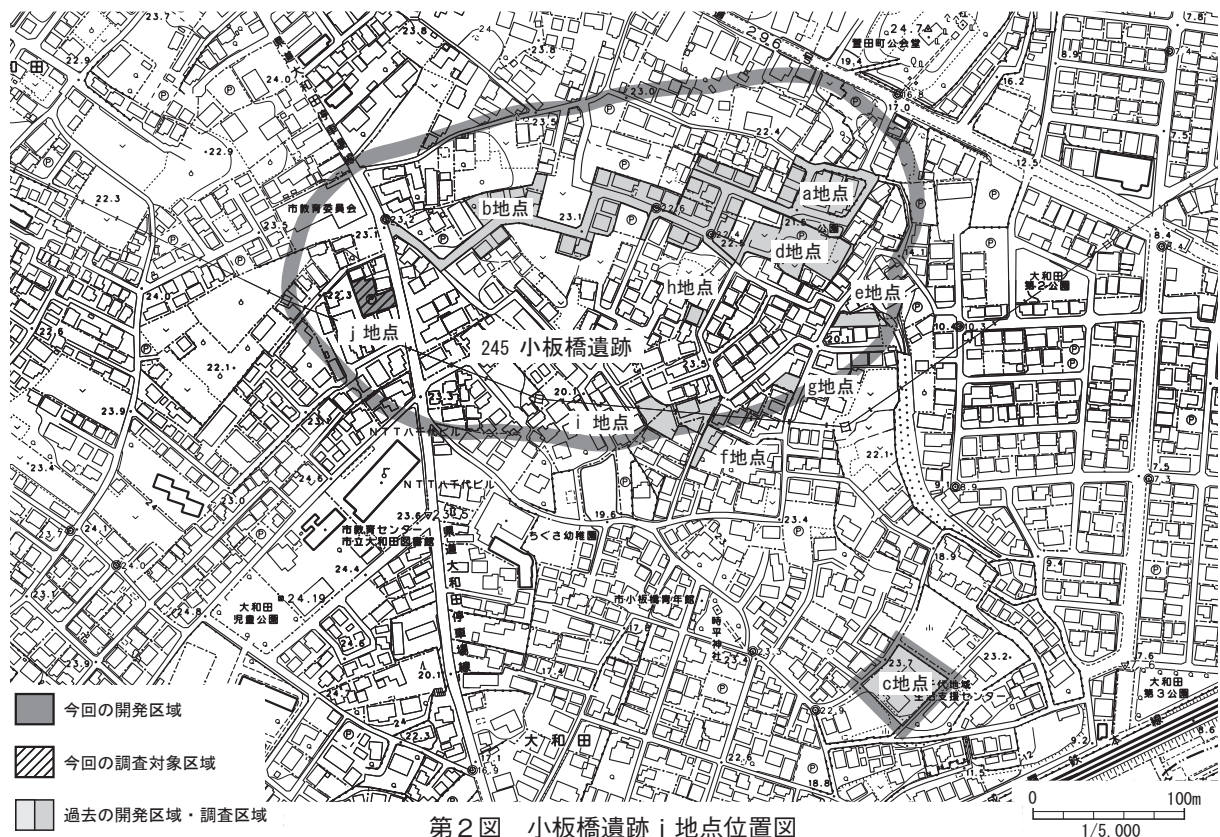
#### 遺跡の立地と概要

小板橋遺跡は市域の南部の大和田地区に所在する。新川の上流域で新川に面する左岸の標高23m前後の台地上の平坦面に立地する。地形面区分では下総下位面にあたる。本跡の規模は、東西方向約430m、南北方向約230mを範囲としている。この本跡の本体部分から南側に約200m離れて約40m四方のc地点が飛び地として存在する。

第1表 小板橋遺跡の調査

地点	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	5,379.55	確認	竪穴建物跡と思われる落ち込み4	土師器	調査会	S55.3	未報告 *1
		本調査	古墳時代中期 竪穴建物跡7、溝1 同 後期 竪穴建物跡6、ピット1 時期不明 竪穴建物跡2	古墳時代 土師器、須恵器、石製模造品(白玉、 双孔円板、剣形品、紡錘車、勾玉)、土玉4ほか		S55.7	
b	394/3,400 1,536	確認	古墳時代中期 竪穴建物跡2、土坑4	古墳時代 土師器、鉄器(鎌)、土玉、砥石、 白玉、白玉未製品、滑石片等	調査会	S59.8	*2
		本調査				なし	
c	16/35.74 225/1,514.03	確認	なし	なし	市教委	S61.8	未報告
		本調査				古墳時代 溝状遺構3	
d	170/1,846.80 1,177	確認	縄文時代 陥穴6 古墳時代 竪穴建物跡1、土坑3 中世 地下式坑9、土坑168、台形整形遺構	古墳時代 土師器 中世 陶器、板碑	市教委	H23.8	市内H24 *3
		本調査				なし	
e	30/333	確認	なし	古墳時代 土師器	市教委	H24.3	*4
f	30/277.38	確認	縄文時代 陥穴1	近世 素焼土器	市教委	H24.9	市内H25
g	14/165	確認	近世以降 落ち込み1	縄文土器 近世 かわらけ	市教委	H25.10	
h	13.2/145.94	確認	近世・近代 溝跡1	古墳時代 土師器	市教委	H26.1	市内H26
i	32/405.49	確認	なし	なし	市教委	H26.2	

\*1「八千代の歴史 資料編 原始・古代・中世」 \*2「千葉県八千代市 小板橋遺跡-b地点埋蔵文化財発掘調査報告書」2008(H20) \*3「千葉県八千代市 小板橋遺跡 d 地点」2013(H25) \*4「千葉県八千代市 公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅶ」2015(H27)



第2図 小板橋遺跡 j 地点位置図

本跡の調査は、過去9地点で行われている。過去の調査では、a・b地点を中心に、古墳時代中期の集落の一部が検出されていた。この時期の遺構には石製模造品が多く出土しているのが本跡の特徴となっている。また、最近では、d地点で明らかになったように、中世の地下式坑や台地整形遺構が検出され、本跡の新たな一面も明らかになりつつある。今回の地点は、本跡本体部分の西端に近い台地平坦面で、455.12㎡が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象となった。

### 調査の方法と経過

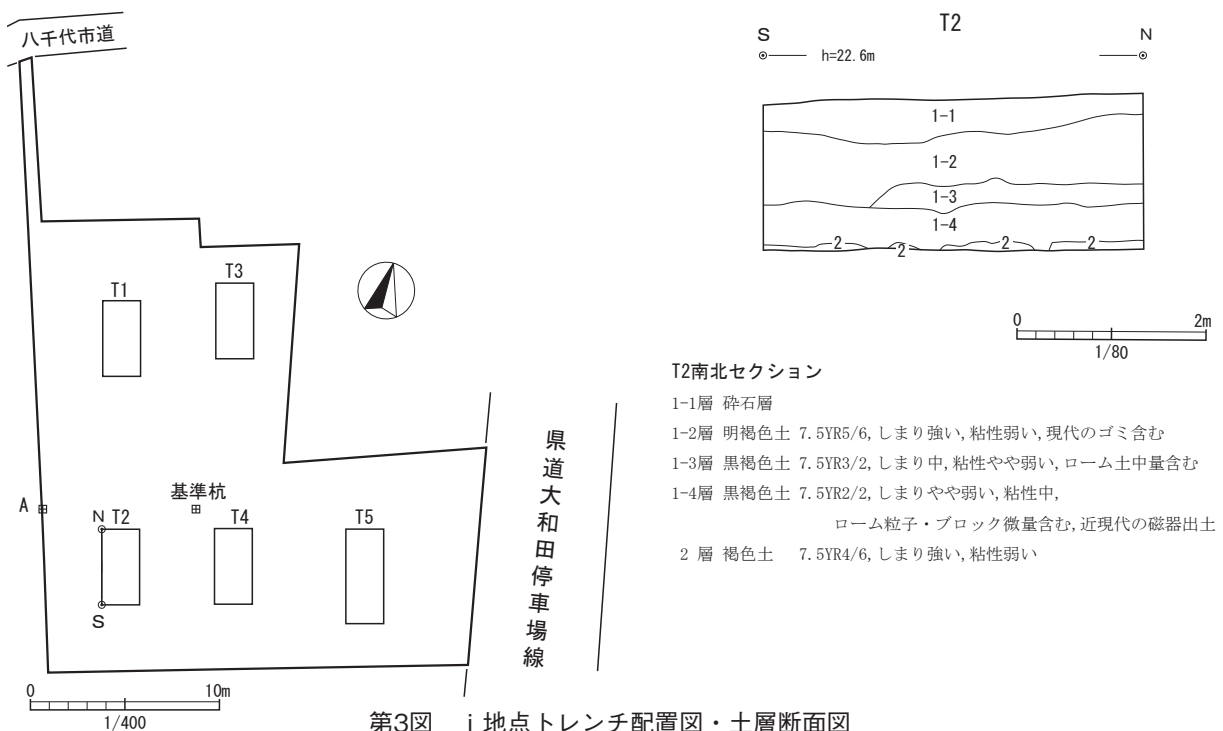
発掘調査は調査区の中央付近に任意に杭を設置し、境界杭Aを結ぶラインを基準線とした。この基準線にあわせて、調査区に任意に2m×4mのトレンチを基本に5か所設定した。トレンチの掘削は、遺構確認面とするローム上面まで重機により表土を除去した。この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点(h=22.3m)を基準に計測した。

調査は平成29年6月1日から6月6日まで行われた。1日木曜日：器材搬入、トレンチの設定。2日金曜日：重機による表土掘削。清掃確認作業。5日月曜日：レベル移動、土層の写真・実測。6日火曜日：重機による埋め戻し作業。器材を撤収し、調査を完了した。

### 調査の概要

発掘調査は調査対象面積 455.12㎡に対して、トレンチ5か所、掘削面積は42㎡、全体の9.2%の面積を掘削し調査した。調査区の土層は、いずれのトレンチでも現地表面より160cmほどでソフトローム層が検出されたが、その間の土層の大半に黒色土の盛土層が確認された。自然の堆積はほとんどみられず、全面的に掘削後に盛土が行われたものと推測された。T3トレンチの大半がゴミ穴で掘削確認後崩壊の危険があるためすぐに埋め戻しを行った。

調査の結果、遺構は検出されず、出土遺物は近現代の陶器や植木鉢が3点出土した。



### 調査のまとめ

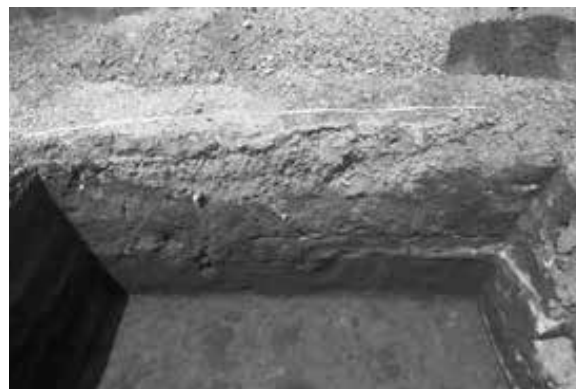
今回の調査の結果、遺構は検出されず、回収された遺物も近現代のもののみであったため、保存協議の対象とすべき区域とはならなかった。

これまでの調査成果から見ても、新川側の台地先端には遺構の展開が密にみられるものの、台地内陸側には遺構の存在が希薄になる傾向がより明らかとなってきたといえる。

### 図版1 小板橋遺跡 j 地点



1. 調査区全景



2. T2トレンチ土層断面



3. T2トレンチ



4. T4トレンチ



5. T5トレンチ



6. トレンチ完掘状況全景



## 2. 殿内遺跡 f 地点（2次確認調査）

### 遺跡の立地と概要

殿内遺跡は市域の中央部南側、村上地区に所在する。新川の中流域に右岸から流れ込む上相女谷津を約500m遡った左岸で、さらに小さな谷津の奥に形成された北側に突出した舌状台地上に立地する。この台地は河岸段丘の下総上位面で形成され、標高26mから27mのほぼ平坦な地形を呈している。

遺跡の規模は南北方向約250m、東西方向約150mと限定的であるが、本跡の周辺には持田遺跡(市No.200)・正覚院館跡(市No.201)・境作遺跡(市No.202)・浅間内遺跡(市No.204)・村上込の内遺跡(市No.210)など、

第2表 殿内遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	84/5,000	確認	堅穴建物跡1, 落ち込み3	土師器	調査会	S60.9	*1
	800	本調査	奈良時代 堅穴建物跡1	土師器, 須恵器		S61.1	
b	466.5/4,800	1次確認		旧石器時代 槍先形尖頭器 縄文土器 (中期加曾利E式)	市教委	H28	*2
	4,800	1次本調査	古墳時代前期 堅穴建物跡1 奈良・平安時代 堅穴建物跡36, 掘立柱建物1, 土坑他	古墳時代前期 土師器 奈良・平安時代 土師器, 須恵器, 鉄器, 紡錘車等		H2.10~ H3.7	
	550	2次確認本調査	奈良・平安時代 堅穴建物跡2 近世 土坑5, 不明溝3	奈良・平安時代 土師器, 須恵器 近世 陶磁器, 寛永通宝		H4.6~ H4.9	
c	64.3/499.95	確認	奈良・平安時代 堅穴建物跡7, 掘立柱建物跡2, 土坑9	奈良・平安時代 土師器, 須恵器	市教委	H17.11	市内H18
d	48/456	確認	古墳時代 堅穴建物跡1 奈良・平安時代 堅穴建物跡1, 土坑2	古墳時代 土師器 奈良・平安時代 土師器, 須恵器	市教委	H26.7	市内H27
	76/706.57	確認	奈良・平安時代 堅穴建物跡8, 掘立柱建物跡4	奈良・平安時代 土師器, 須恵器		H28.10	市内H29
e	370	1次本調査		旧石器時代剥片 縄文土器 (中・後期)	市教委	H29.2~3	*3
	336.57	2次本調査	奈良・平安時代 堅穴建物跡10, ビット8 近世 溝5, ビット2	奈良・平安時代 土師器, 須恵器		H29.4~7	
f	42/300	1次確認	奈良・平安時代 堅穴建物跡2	奈良・平安時代 土師器, 須恵器	市教委	H28.12	市内H29
	246	2次確認	今回の報告				
	246	本調査	奈良・平安時代 堅穴建物跡5, ビット4	縄文土器 (前・中・後期) 奈良・平安時代 土師器, 須恵器		H29.7~8	*4

\*1「千葉県八千代市 境作遺跡・殿内遺跡」2015(H27) \*2「千葉県八千代市 殿内遺跡 b地点」2009(H21) \*3「千葉県八千代市 殿内遺跡 e地点」2018(H30) \*4「千葉県八千代市 殿内遺跡 f地点」2018(H30)



遺構密度の高い遺跡に密接に囲まれている。

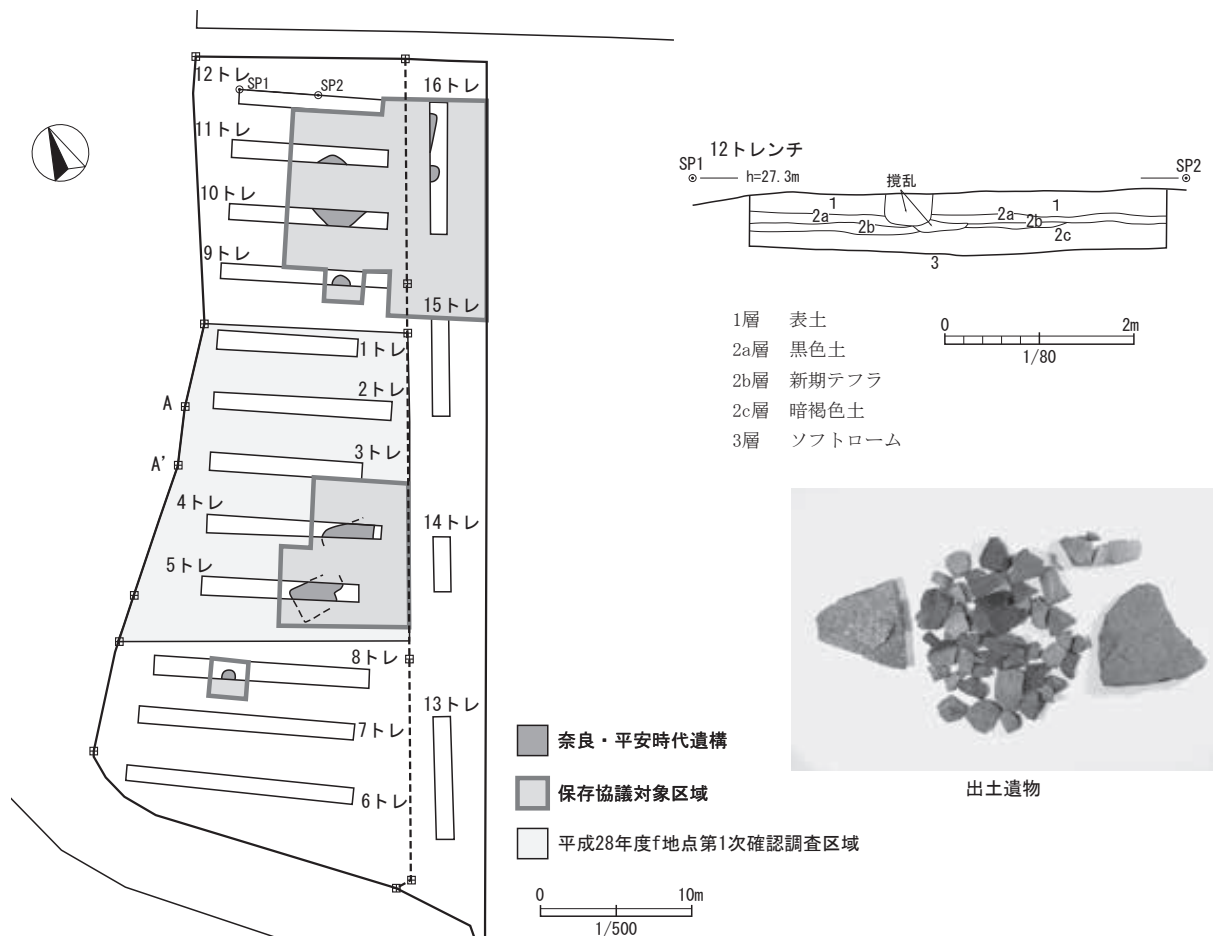
本跡の調査は、昭和60年、商業施設建設に先行して実施された a 地点の調査と平成2年から4年にかけて行われた2度にわたる b 地点の本調査により、奈良・平安時代を中心とする遺跡であることが明らかになってきた。また、平成17年には、b 地点から南に約120m離れた c 地点で確認調査が行われ、奈良・平安時代の遺構が検出されている。さらに、本跡域南端で d 地点の調査が行われ、古墳時代及び奈良・平安時代の竪穴建物跡が検出され、遺跡の広がり確認されるとともに、南側に隣接する浅間内遺跡と隙間なく展開していることが明らかになっている。平成26年以降行われた d・e・f 地点の調査においても奈良・平安時代の遺構が数多く検出されており、集落の展開は広く、密度が高いものと推定された。

本報告は一昨年度調査した f 地点の第2次確認調査である。f 地点の区域内で既存建物等のため調査のできなかった区域である。（\*昨年度の報告の図において調査対象区域の範囲に誤りがあったので、今回修正した。）

### 調査の方法と経過

発掘調査は第1次確認調査と同様に、調査区域の形状にあわせて任意にトレンチを設定した。掘削は人力による掘削後、遺構確認面まで重機で表土を除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。この調査での標高は、都市計画図で標高の明らかな地点(h=26.4m)を基準に測定した。

調査は平成29年6月5日から6月12日まで行われた。5日月曜日：トレンチの設定。人力による掘削開始。6日火曜日：重機による表土除去作業開始。遺構確認開始。7日水曜日：重機による表土除去完了。



第5図 f 地点2次確認調査トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物

12トレンチ土層分層。同実測・写真。8日木曜日：遺構確認作業。遺構にサブトレンチ実施。12日月曜日：重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。

### 調査の概要

発掘調査は f 地点の調査対象面積1,021.90㎡に対して，一昨年度の第1次確認調査で300㎡が実施されており，今回の第2次確認調査では，未調査の721.90㎡が対象となった。トレンチ11か所，掘削面積110.5㎡，全体の15.31%の面積を掘削し調査した。調査区は前回と同様，平坦な地形で，土層も厚い耕作土が表土を形成し約60cmでソフトローム層に達した。新期テフラや暗褐色土層などの自然堆積もみられた。今回の調査の結果，奈良・平安時代の竪穴建物跡が2軒，土坑3基が検出されている。また，出土遺物は総数

### 図版2 殿内遺跡 f 地点（2次確認調査）



1. 調査区全景



2. トレンチ掘削作業



3. 遺構検出作業



4. 12トレンチ土層断面



5. 10トレンチ遺構検出状況



6. 11トレンチ遺構検出状況



52点で、主に奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土し、陶器も1点回収されている。須恵器や陶器の大きな破片もあったが、多くは小片のため実測できなかった。10トレンチで土師器24点、須恵器3点、11トレンチで土師器8点、須恵器1点、12トレンチで土師器7点、14トレンチで土師器6点、須恵器2点、陶器1点が出土した。

#### 調査のまとめ

今回の調査の結果、多くの土師器や須恵器が出土し、奈良・平安時代の竪穴建物跡2軒、土坑3基が検出されたことにより、保存協議の対象とすべき区域を181㎡とした。これによりf地点全体では、奈良・平安時代の竪穴建物跡4軒、土坑3基、保存協議の対象とすべき区域は246㎡となった。これらの結果を受け、平成29年7月13日から8月23日まで、本地点全体の記録保存のための本調査が実施され、報告書が平成30年3月15日刊行されている。

### 3. 殿内遺跡 g 地点

#### 遺跡の立地と概要

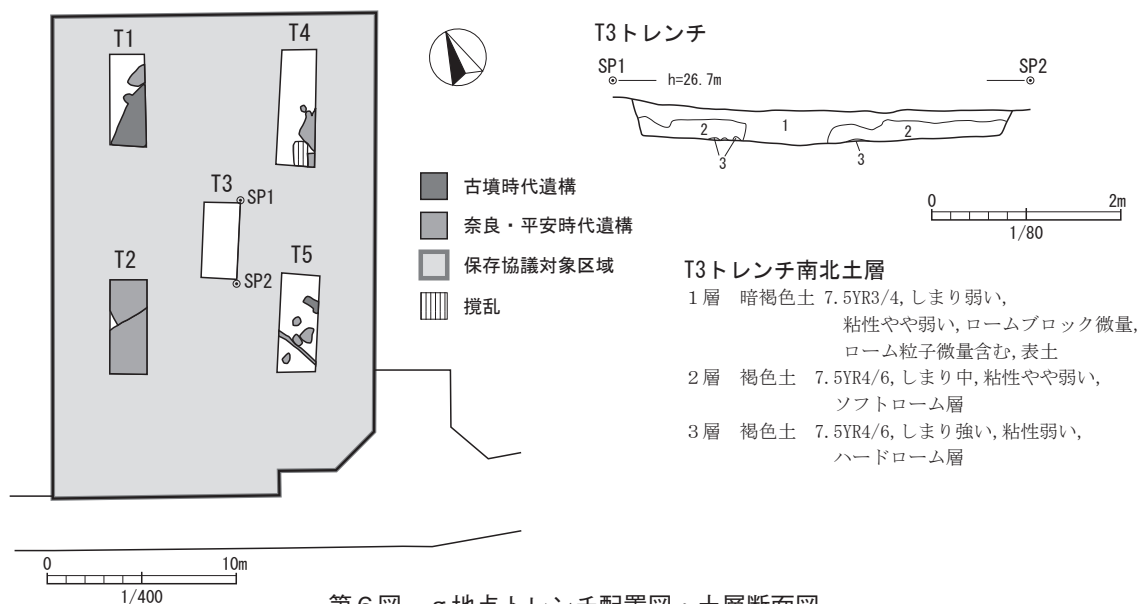
g 地点は南北に長い本跡にあって跡域の東端にあたる。調査区の現況は、ほぼ平坦な地形である。

#### 調査の方法と経過

発掘調査は対象区域の形状にあわせて、幅2mで長さを4mから6mのトレンチを全体に任意に設定した。掘削は当初遺構確認面を検出するため人力により行い、その後、遺構確認面まで重機で表土を除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、都市計画図で標高の明らかな地点(h=26.2m)を基準に計測した。

調査は平成29年10月10日から10月18日まで行われた。10日火曜日：トレンチ設定。T2トレンチを人力により掘削。遺構・遺物の検出多数あり。17日火曜日：重機による表土除去実施。各トレンチで遺構らし





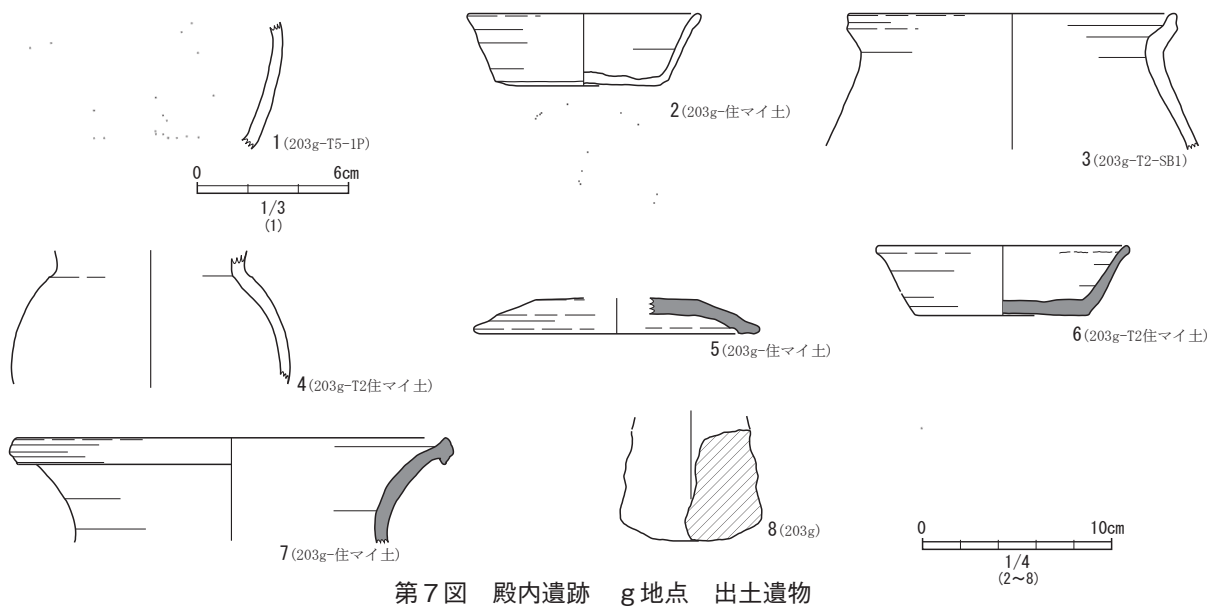
き落ち込み確認。18日水曜日：T5トレンチで土層確認。実測・写真。平面測量実施。埋め戻しは事業者にて行うこととなり、器材を撤収し調査を完了した。

調査の概要

調査区の土層は、地表面から10cmほどの表土層の直下にソフトローム層を確認した。発掘調査は調査対象面積 420.04㎡に対して、トレンチ5か所、掘削面積50㎡、全体の11.90%の面積を掘削し調査した。調査の結果、古墳時代の竪穴建物跡1軒、土坑1基、奈良・平安時代の竪穴建物跡が4軒、その他に溝状遺構1条、土坑7基が検出された。出土遺物は弥生土器、古墳時代から奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土している。総数は161点で内訳は、弥生土器1点、土師器135点、須恵器23点、支脚1点、鉄片1点であった。遺構及び出土遺物は、狭小な調査区域に密集していた。

調査のまとめ

この地点の調査で古墳時代から奈良・平安時代の竪穴建物跡が5軒検出され、弥生時代から奈良・平安時代の遺物まで多数出土した。そのため、調査区域全域420.04㎡を保存協議の対象とすべき範囲とした。



第7図 殿内遺跡 g地点 出土遺物

図版3 殿内遺跡 g地点



1. 調査区全景



2. T1トレンチ遺構検出状況



3. T2トレンチ遺構検出状況



4. T3トレンチ遺構検出状況



5. T4トレンチ遺構検出状況



6. T3トレンチ土層断面



7. T5トレンチ遺構検出状況



8. トレンチ掘削後全景



9. 出土遺物 (1)



10. 出土遺物 (2)

## 4. 麦丸宮前上遺跡 e 地点

### 遺跡の立地と概要

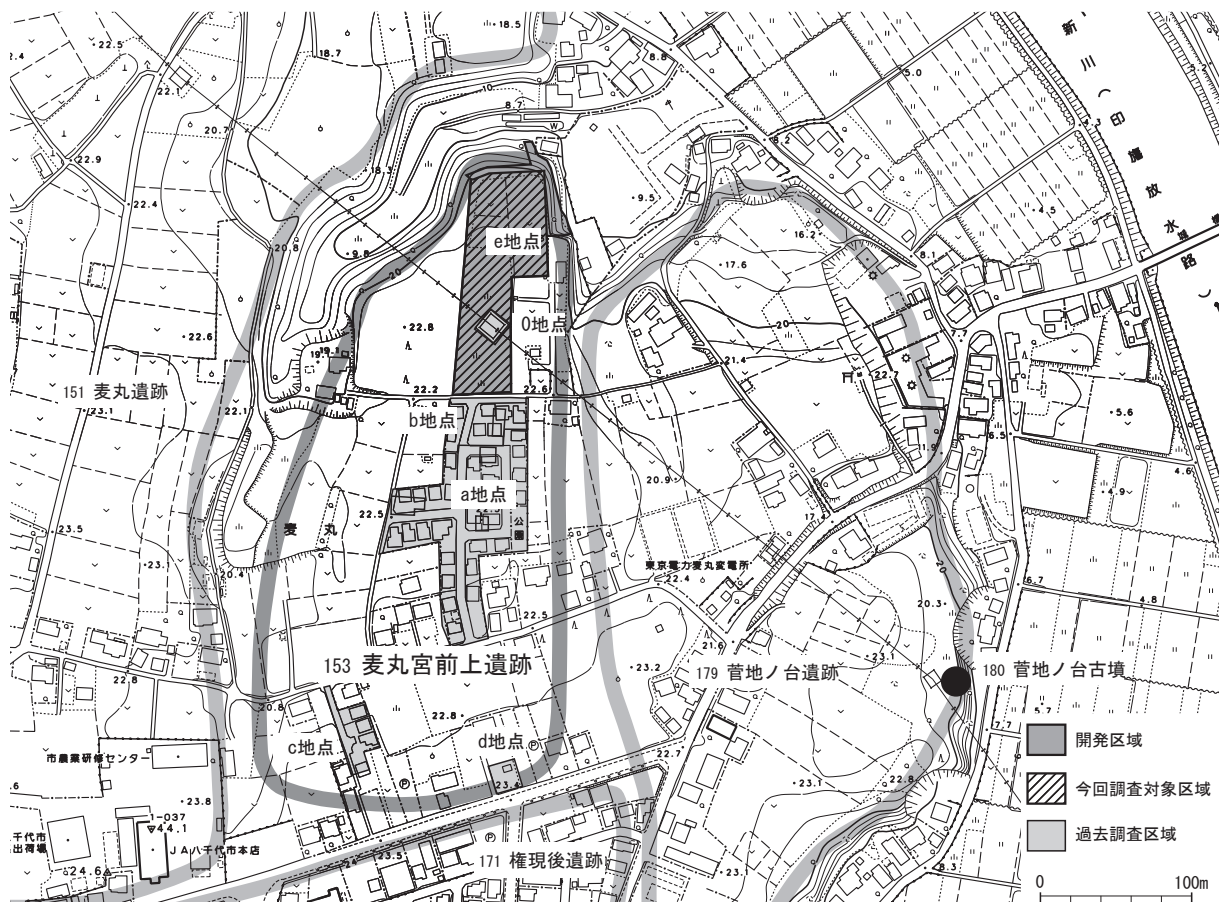
麦丸宮前上遺跡は市域の中央部、麦丸地区に所在する。新川中流域で桑納川が左岸から合流する地点の南岸の標高22mから23mの下総下位面の台地上に立地する。本跡の規模は、東西約250m、南北約450mの比較的小規模で南北に細長い区域を包蔵地としている。昭和47年の「遺跡分布図」によれば、西側に隣接する麦丸遺跡(市No151)と同一の遺跡として認識されていた。昭和57年の包蔵地の調査により、広範囲な麦丸遺跡の中に小さな谷津が新川に向かって開析されていたため、遺跡の分割が行われた。

本跡区域内の調査は、過去5回行われている。本跡(仮)0地点では、調査面積が小さかったこともあり、遺構は確認されず、縄文土器と砥石が出土するのみであった。これ以降、本跡北側地区の発掘調査が行われていないため、北側の遺跡実態は明らかとなっていなかった。a・b地点は本跡中央部に位置している。奈良・平安時代の竪穴建物が合計6軒ほど検出されている。少なくとも本跡中央部に、集落の存在が確認された。c地点及びd地点は遺跡南部に位置し、遺構・遺物の検出はなかった。

第3表 麦丸宮前上遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
0(*)	260	確認本調査	なし	縄文土器、砥石	調査会	S55.9~10	未報告
a	686/7,123.96	確認	古墳時代後期~奈良時代 竪穴建物跡4	古墳時代後期~奈良時代 土師器、須恵器	市教委	H20.9	市内H21
b	404	本調査	奈良時代 竪穴建物跡4	奈良時代 土師器、須恵器	市教委	H20.9~10	未報告
b	163/1,496.29	確認	奈良・平安時代 竪穴建物跡2	奈良・平安時代 土師器	市教委	H21.6	市内H22
c	50/942.68	確認	なし	なし	市教委	H21.9	市内H22
d	32/331.01	確認	なし	なし	市教委	H26.11	市内H27

\* この地点の調査時、麦丸遺跡の範囲が麦丸宮前上遺跡の範囲を含んでいたため、麦丸遺跡として調査された。そのため、この地点を麦丸宮前上遺跡0地点と仮称する。



第8図 麦丸宮前上遺跡 e 地点位置図

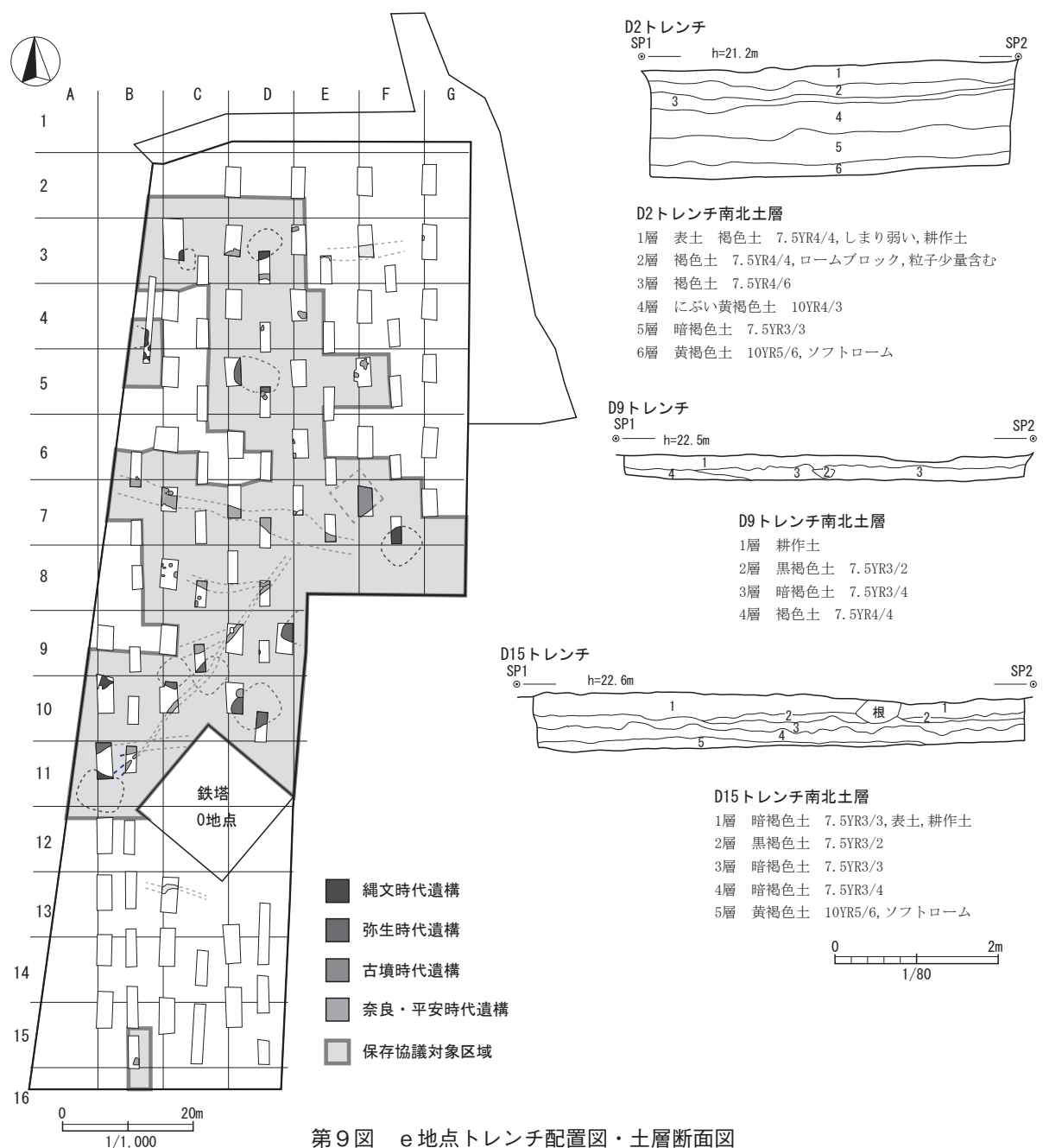


今回の調査地点は、昭和55年に調査が行われた0地点(鉄塔)を取り囲むように広がる台地の北側、先端一帯の平坦面である。

### 調査の方法と経過

発掘調査はおおむね南北方向に細長い調査区の形状にあわせて10m方眼のグリッドを設定した。このグリッドを基準に2m×5mの基本トレンチを設定した。また、遺構密度や遺構の広がりを確認するため約1.5m幅の追加トレンチを基本トレンチの間に設けた。さらにB3からB5にかけて1m幅のトレンチ(「最後のトレンチ」)を追加した。掘削は遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去したが、最後のトレンチは人力により掘削した。重機による表土撤去後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、都市計画図上の標高の明らかな地点(地点不明)を基準に計測している。



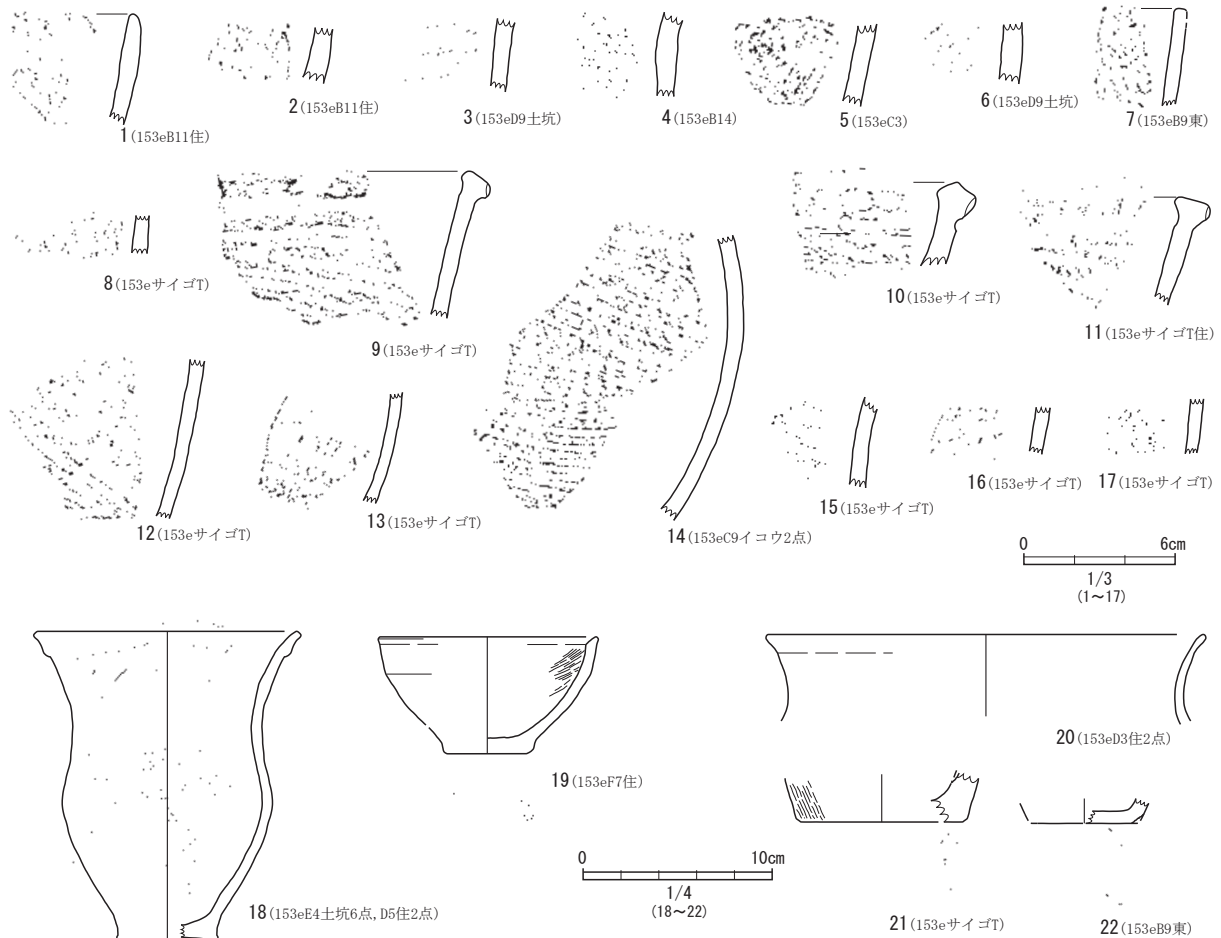
第9図 e地点トレンチ配置図・土層断面図

調査は、平成29年6月12日から6月28日まで行った。12日月曜日：杭打ち，グリッドの設定及びトレンチ設定。13日火曜日：重機による表土除去開始。遺構検出作業開始。14日水曜日：重機による表土除去継続。遺構検出作業継続。15日木曜日：重機による表土除去，基本トレンチの掘削完了。19日月曜日：各トレンチの精査。トレンチの平面測量。20日火曜日：重機による追加トレンチの表土除去開始。22日木曜日：追加トレンチの掘削終了。各トレンチの精査。23日金曜日：トレンチの精査。土層分析，実測等記録作業。検出遺構の測量。「最後のトレンチ」の設定，人力により掘削。26日月曜日：「最後のトレンチ」の掘削，土層実測終了。検出遺構の測量終了。重機による埋め戻し開始。27日火曜日・28日水曜日：埋め戻し終了。器材撤収し調査完了。

調査の概要

調査区はほぼ平坦な地形であった。台地先端部では現地表面より120cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出され，調査区中央部では，約30cm，調査区南端部では約60cmで検出された。表土は耕作土であったが，厚薄はあるが，自然堆積が確認されている。

発掘調査は調査対象面積 6,301.39㎡に対して，トレンチ90か所，掘削面積は752㎡，全体の11.93%の面積を掘削し調査した。この調査の結果，縄文時代の竪穴建物跡5軒，土坑2基，竪穴状遺構2か所，弥生時代の竪穴建物跡6軒，古墳時代の竪穴建物跡1軒，奈良・平安時代の竪穴建物跡1軒，掘立柱建物跡1棟，土坑20基，溝状遺構5条，近現代の溝状遺構2条などが検出された。また，出土遺物は縄文土器26点，



第10図 麦丸宮前上遺跡 e 地点 出土遺物

弥生土器10点，土師器33点，不明1点の総数70点を回収している。縄文土器では，後期 加曾利b式土器を中心に前期後葉 浮島式土器，中期 加曾利E式土器などがみられた。弥生土器は後期のものであった。

#### 調査のまとめ

発掘調査の結果，縄文時代や弥生時代，奈良・平安時代のそれぞれの時代の集落の一部が検出されている。また，遺物もそれぞれの時期の土器が出土している。保存協議の対象となった区域は，調査区北側の台地先端側の区域一帯と南端部の一部3,540㎡であった。記録保存のための本調査は，(株)地域文化財研究所に委託され，平成29年10月30日から翌30年1月18日まで行われ，平成30年12月25日報告書が刊行された。

図版4 麦丸宮前上遺跡 e 地点



1. 調査区全景



2. D5 トレンチ遺構検出状況



3. C8 トレンチ遺構検出状況



4. C10 トレンチ遺構検出状況



5. D10 トレンチ遺構検出状況



6. D15 トレンチ土層断面





7. D5 トレンチ遺構確認面遺物検出状況



8. B9 トレンチ遺構検出状況



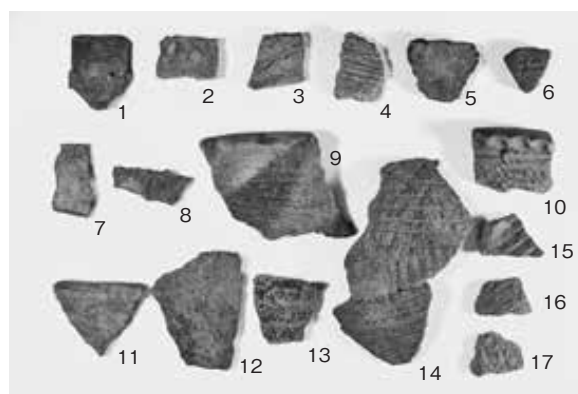
9. D2 トレンチ土層断面



10. D9 トレンチ土層断面



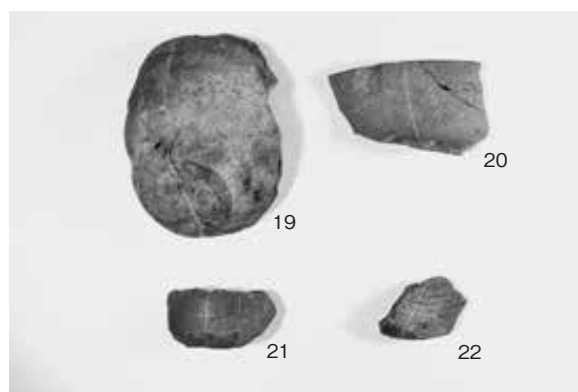
11. 「最後のトレンチ」遺構検出状況



12. 出土遺物 (1)



13. 出土遺物 (2)



14. 出土遺物 (3)



## 5. 浅間内遺跡 c 地点

### 遺跡の立地と概要

浅間内遺跡は市域の中央部南側、村上地区に所在する。新川中流域の右岸、沖塚辺田前低地の北岸の舌状台地の先端部に立地する。地形区分は下総上位面にあたる。現在、区画整理による造成工事が行われ、

第4表 浅間内遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書						
1次確認	1,100/11,510	確認 本調査	1次本調査・2次本調査 (H6) 弥生時代～奈良・平安時代 堅穴建物跡19, 掘立柱建物跡1など	縄文土器 (早期・中期), 土器片鏢, 石鏢 弥生土器, 砥石 古墳時代～奈良・平安時代 土師器, 須恵器, 鉄製品, 石製品 中世 陶磁器	調査会	1確 H6.4～ 3確 H7.1～ 1本 H6.6～ 2本 H7.2～	*1						
1次本調査	1,000		2次本調査 (H7)・3次本調査 縄文時代～奈良・平安時代 堅穴建物跡51, 古墳1, 方形周溝2, 土坑281など					2本 H7.4～ 3本 H7.9～	*2				
2次本(H6)	1,400							2次確認		なし	奈良・平安時代 土師器, 須恵器 中世 かわらけ 近世 陶器	2確 H6.7～	*1
2次本(H7)	3,000												
3次本	4,300							4次確認 150/570 5次確認 94/1,054 4次本調査 98 下層 5/98		縄文時代 土坑10 古墳時代前期 土坑2 後期 堅穴建物跡1	縄文土器 古墳時代 土師器	市教委	4確 H11.5 5確 H12.5 4本 H12.5
下層	130												
2次確認	30/200	5次本調査 1,400 下層 4/1,400	旧石器時代 縄文時代 土坑4 弥生時代 堅穴建物跡1, 土坑2 奈良時代 堅穴建物跡3 平安時代 堅穴建物跡2, 土坑3 近世・近代 墓坑1, 炭焼窯1, 土坑3, 溝6	旧石器 (石刃, 石鏢他) 縄文土器, 石鏢 弥生土器, 鉄製穂摘み具 古墳時代～奈良・平安時代 土師器, 須恵器, 鉄製品, 石製品, 炭化種子, 銅鏢 寛永通宝	市教委	5本 H13.6	*3						
確認本調査	82/500 本 27					確認本調査		奈良時代 堅穴建物跡2 溝1	古墳時代～奈良・平安時代 土師器, 須恵器,	調査会	6確本H12.10	*1	
7次確認	284/3,600										旧石器時代 縄文時代 土坑19 弥生時代 堅穴建物跡10 古墳時代 堅穴建物跡7 奈良・平安時代 堅穴建物跡22など		旧石器 縄文土器 弥生土器 古墳時代～奈良・平安時代 土師器, 須恵器
7次本調査	2,800												
下層	14/2,800												
下層本調査	6	確認本調査	なし	なし	市教委	H28.5	市内H29						
6次確認	27												
7次本調査	2,800	確認本調査	なし	なし	市教委	H28.5	市内H29						
下層	14/2,800												
下層本調査	6	確認本調査	なし	なし	市教委	H28.5	市内H29						
6次確認	27												

\*1「千葉県八千代市浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡 八千代市辺田前土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書」2007(H19) \*2「千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書 浅間内遺跡第2次本調査,浅間内遺跡第3次本調査」2007(H19) \*3「千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書 浅間内遺跡第5次本調査, 浅間内遺跡第7次確認調査」2003(H15)



第11図 浅間内遺跡 c 地点位置図

本来の地形は、大規模に改変されてしまったが、かつては標高25m前後のほぼ平坦な地形を呈していた。遺跡の規模は南北方向で約300m、東西方向で約250mである。

本跡の調査は、平成6年から平成16年まで断続的に区画整理事業を原因としたa地点の調査が行われた。遺跡の大半が工事区域となっていたが、既存の宅地や道路の多くは現状保存として調査対象から外され、新設の道路と山林や畑地を対象にして、虫食い状態で調査が行われた。検出された遺構は、縄文時代から奈良・平安時代までの各時代の竪穴建物跡が多数検出されている。b地点はa地点の区域内で既存宅地のため、現状保存の措置が取られ、調査が行われなかった区域の一部であった。遺構遺物は検出されなかった。

今回の調査地点もb地点同様に、a地点の残存区域であった。遺跡の北側に位置し、殿内遺跡(市No.203)や正覚院館跡(市No.201)を隔てる小さな谷津に面している。

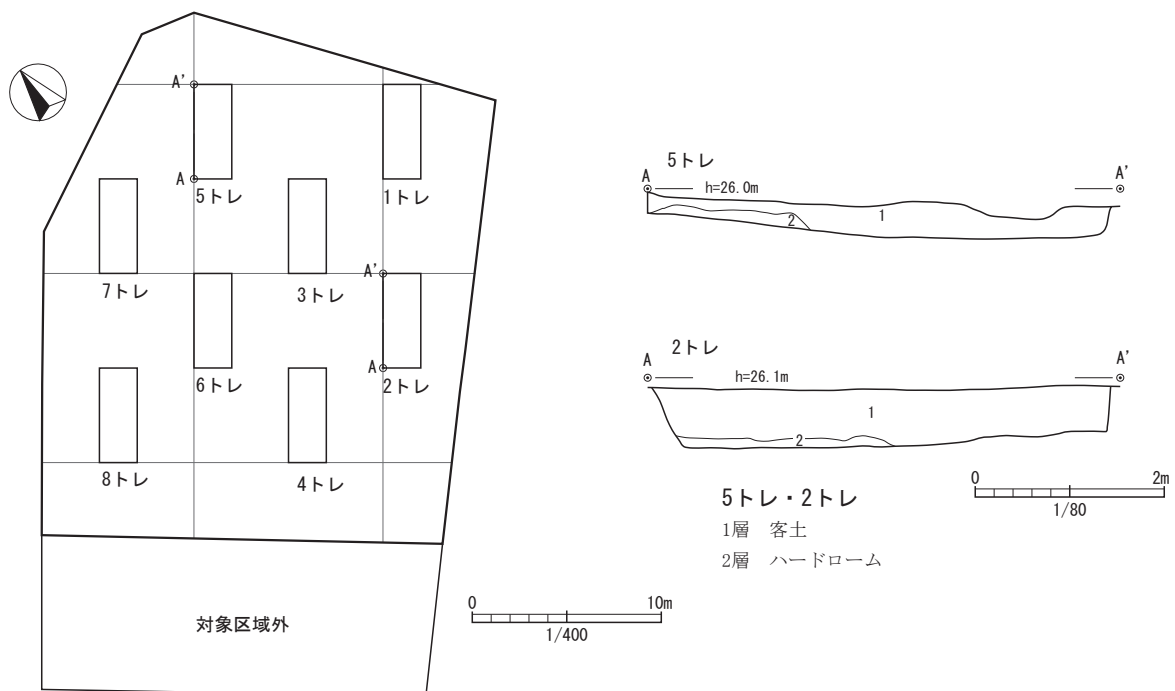
### 調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状に合わせて、任意に10m方眼のグリッドを設定し、2m×5mのトレンチを8か所設定した。掘削は遺構確認面検出のため、人力による掘削後、遺構確認面としたソフトローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後、遺構の検出確認作業、土層の分析を行った。この調査で標高の測定は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点(h=25.6m)を基準に計測した。

調査は平成29年6月15日から6月19日まで行った。15日木曜日：トレンチの設定、人力でのトレンチ掘削を実施。16日金曜日：重機による表土除去作業。土層の実測などの記録作業を行う。19日月曜日：重機による埋め戻し作業を実施し、調査を完了した。

### 調査の概要

調査区は現況でほぼ平坦な地形であったが、調査区の土層観察では、現地表面より10cmから60cmの盛



第12図 c地点トレンチ配置図・土層断面図

土が確認され、その直下にはハードロームが確認された。自然堆積土は検出されていない。

発掘調査は調査対象面積563.53㎡に対して、トレンチ8か所、掘削面積60㎡、10.65%の面積を掘削調査した。調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。

#### 調査のまとめ

今回の調査区域c地点における調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。そのため、保存協議の対象とする区域はなかった。しかし、一昨年度のb地点と同様、遺構密度の濃厚な本跡にあって、遺跡の限界を示しているともいえるが、ハードロームまで削平盛土されている状況から完全に不存在を証明することはできず、さらに周辺での調査が必要と推察される。

#### 図版5 浅間内遺跡c地点



1. 調査区全景



2. トレンチ清掃作業



3. 2トレンチ確認面検出状況



4. 5トレンチ土層



5. 7トレンチ確認面検出状況



6. 埋め戻し作業



## 6. 大山遺跡 c 地点

### 遺跡の立地と概要

大山遺跡は市域の北東部、米本地区に所在する。新川上流域の右岸、新川に南側から流れ込む亀井戸谷津の右岸の台地上平坦面に立地する。地形区分は下総下位面にあたる。標高24m前後のほぼ平坦な地形を呈している。亀井戸谷津と鳥ヶ谷津に挟まれ、新川に向かって伸びる舌状台地の先端の大部分を逆水遺跡(市No.100)が占め、その南側に接して本跡が位置する。遺跡の規模は、南北方向で約320m、東西方向で約350mを範囲としている。

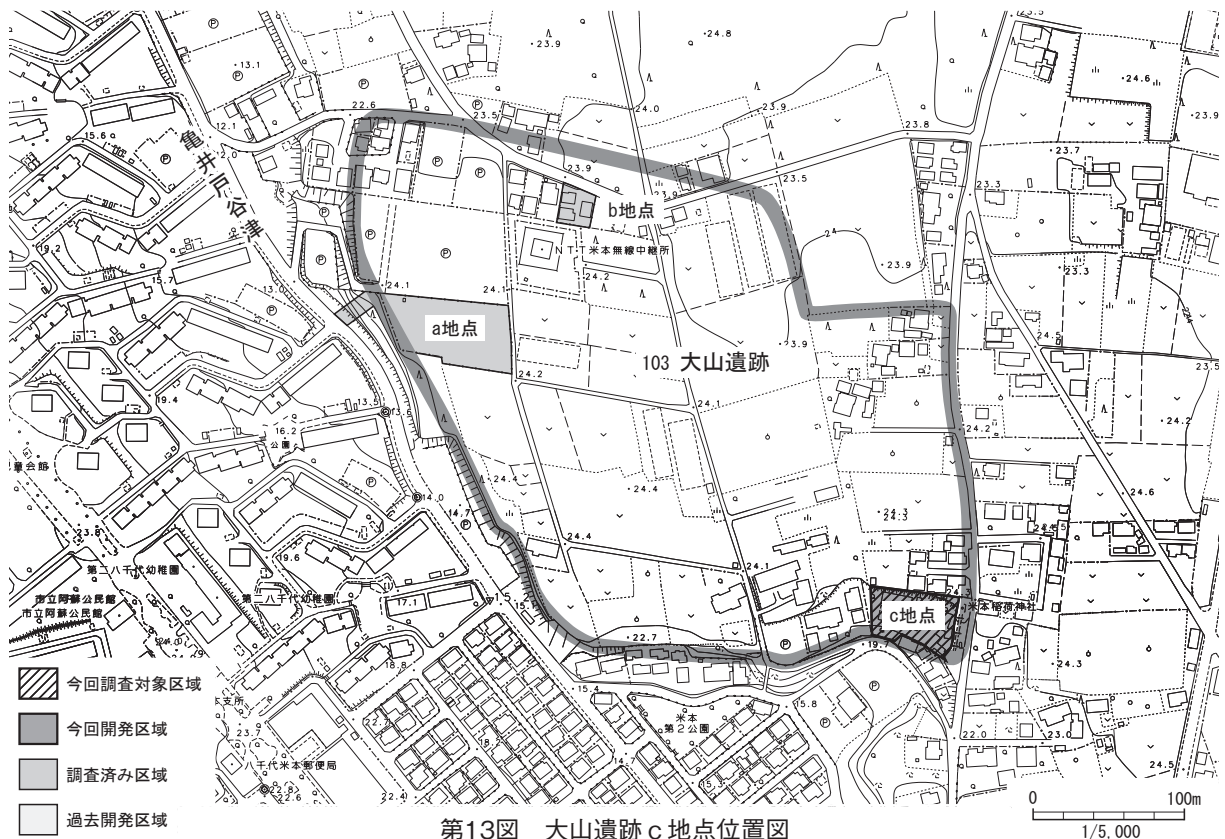
本跡の調査は、過去2地点で調査が行われている。a地点は本跡域の西側の台地先端部で、楕円形から隅丸方形の竪穴建物跡が6軒検出されている。出土する遺物は縄文土器(早期・前期・中期)、弥生土器(後期)、土師器が確認されており、調査の感触では、縄文時代前期を主体とするようにみられた。また、区域内には戦時中の高射砲の掩体壕と推定されるものが確認されている。太平洋戦争末期、本市北部一帯に高射砲部隊が展開していたことと合致する。b地点では中近世以降の炭焼き窯が検出されている。

今回の調査地点は、本跡区域の南東端に位置する。遺跡の南端を区切る小さな谷津の谷津尻に面して立地する。

第5表 大山遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	2970	確認	竪穴建物跡6 高射砲掩体壕1	縄文土器(早・前・中期) 弥生土器(後期) 古墳時代前期 土師器 平安時代 土師器	調査会	S59.11	*1
b	186/528 上層28	確認本調査	中世以降 炭焼き窯1	縄文土器(前期)	市教委	H15.6	市内H16

\*1「千葉県八千代市 埋蔵文化財発掘調査報告集」1987(S62)



第13図 大山遺跡 c 地点位置図

## 調査の方法と経過

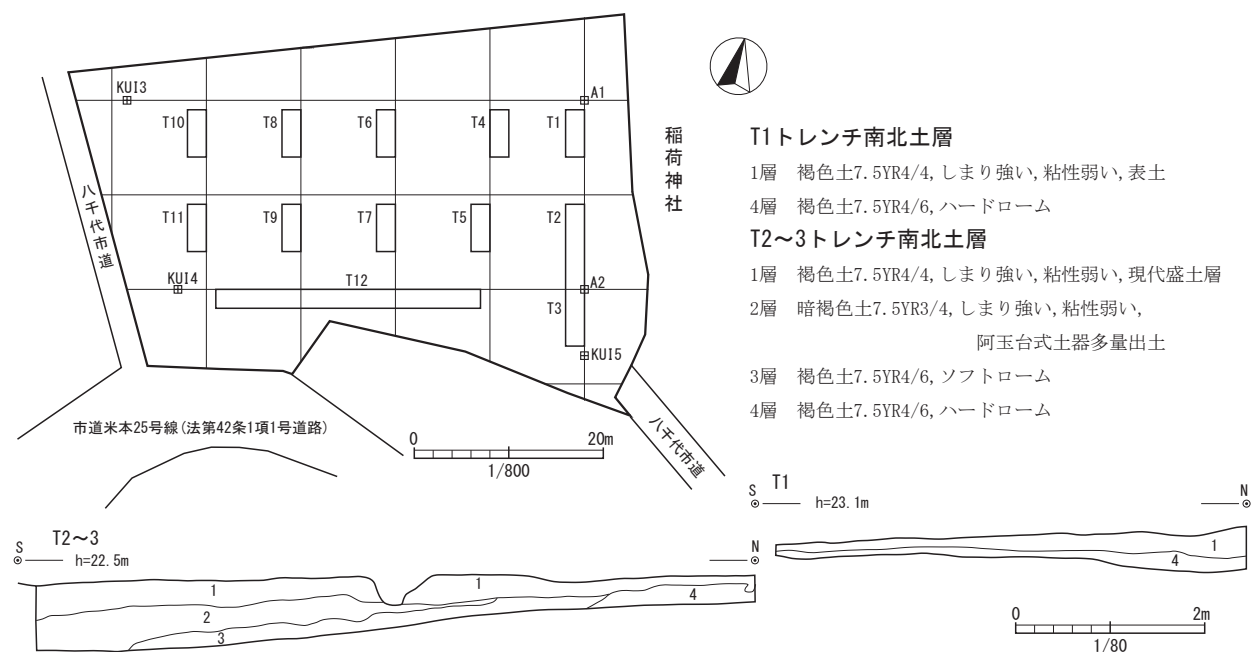
発掘調査は調査区に任意に10m方眼のグリッドを組み、グリッドに合わせて2m×5mを基本としたトレンチを設定した。掘削は遺構確認面検出のため、人力による掘削後、遺構確認面としたソフトローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後、遺構の検出確認作業、土層の分析を行った。この調査で標高の測定は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点(h=22.0m)を基準に計測した。

調査は平成29年7月13日から7月26日まで行った。13日木曜日：グリッド及びトレンチの設定、人力でのT1、T2、T4トレンチを掘削。T1トレンチ掘削終了。30cmほどでハードローム確認。14日金曜日：T2、T4トレンチ掘削終了。18日火曜日：重機による表土除去作業。T9、T11トレンチでクロボク土を検出。19日水曜日：T12トレンチでクロボク土を確認、遺物が出たため人力に切りかえて掘削開始。トレンチの東側の一部でソフトロームを検出。20日木曜日：平面図、土層断面図を実測。26日水曜日、埋め戻し作業を実施し、調査を完了した。

## 調査の概要

調査区の現況は、南西側に向かってやや傾斜がみられたが、ほぼ平坦な地形と認識されていた。しかし、土層観察で表土となる耕作土の直下にハードロームが検出され、調査区の北側の大半がハードロームまで削平されていたことが確認された。また、調査区の南側のトレンチで自然堆積が確認され、南端の一部が斜面のため、削平されていないことも明らかとなった。調査及び基本整理において「クロボク土」と表記した第2層 暗褐色土層が自然堆積土で、この土層中から縄文時代中期 阿玉台式土器が多量に出土していることから、台地平坦面にも同様の時期の遺構の検出が想定された。

発掘調査は調査対象面積 1,904.04㎡(確認依頼当初の1,904.03㎡が93条の届出から修正されていた。)に対して、トレンチ12か所、掘削面積176㎡、9.24%の面積を掘削・調査した。調査の結果、遺構は検出されず、遺物は縄文時代中期 阿玉台式土器を中心にして349点、石器・礫5点、陶器6点、鉄片1点、総数361点

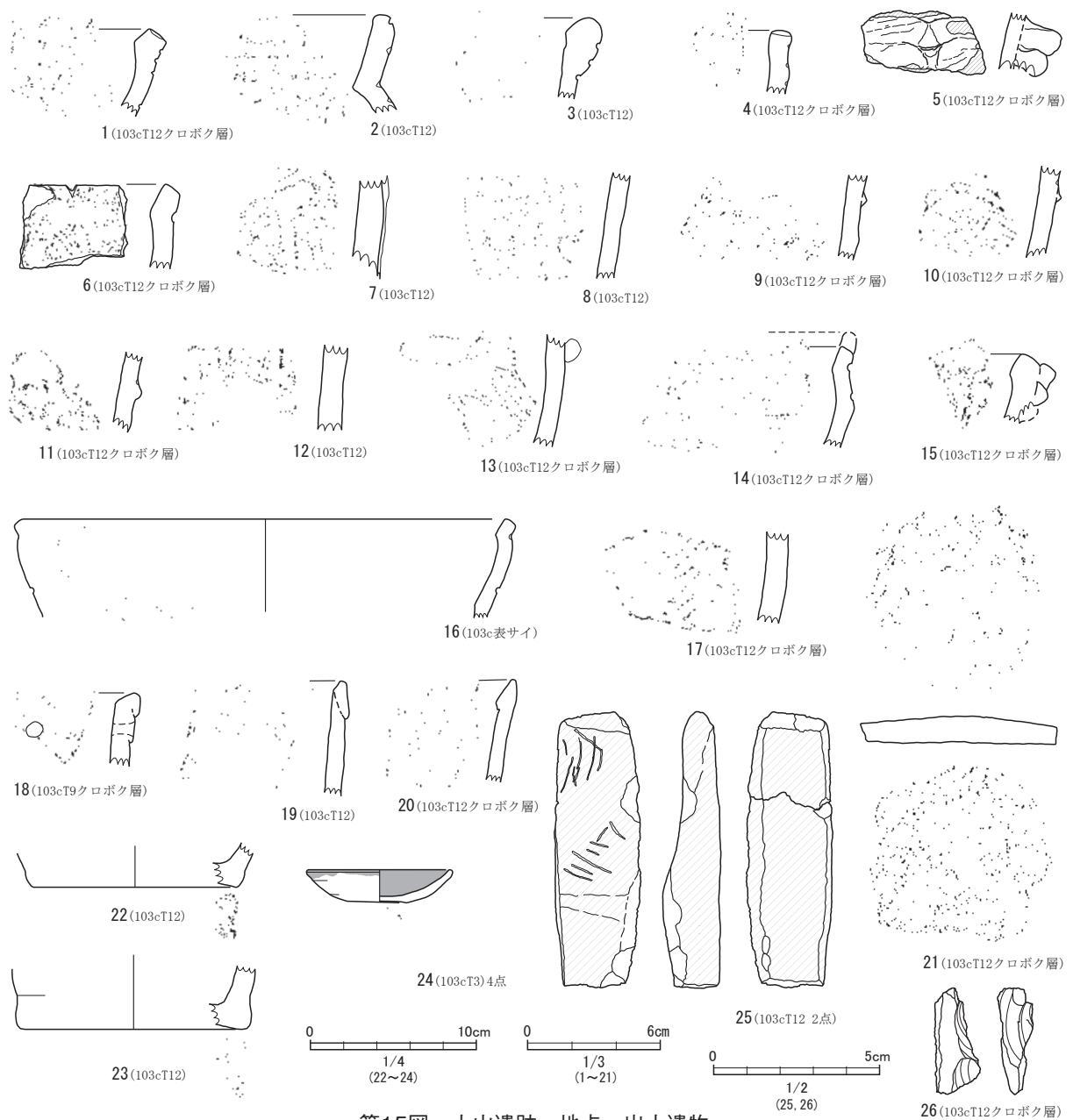


第14図 c地点トレンチ配置図・土層断面図

を回収した。縄文土器はT12トレンチで305点、T3トレンチで21点が出土している。

調査のまとめ

今回の調査区域c地点において、調査の結果、遺構は検出されなかった。しかし、遺物は縄文時代中期阿玉台式土器が多く出土している。台地平坦部はハードロームまで削平され、削平されなかった斜面部に残った自然堆積土中に含まれていたものと判断された。そのため、台地平坦部に遺跡の存在の可能性があるが削平され、すでに失われてしまったものと考えられ、保存協議の対象とすべき区域はないと判断せざるを得なかった。とはいえ、斜面にこれだけの多量の土器が検出されていることから、平坦面には当該時期の遺跡がまだ残存する可能性があるかと推察される。



第15図 大山遺跡c地点 出土遺物



図版6 大山遺跡 c 地点



1. 調査区全景



2. 表土掘削作業



3. T2～T3トレンチ土層



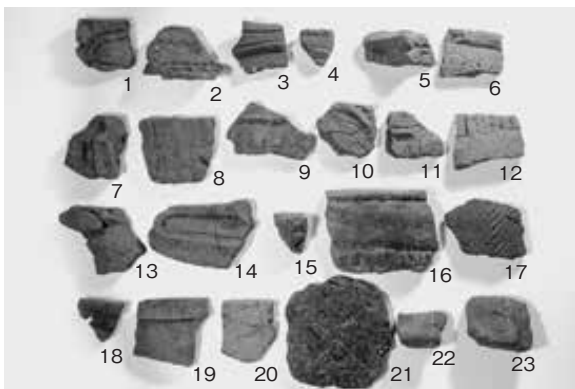
4. T1トレンチ土層断面



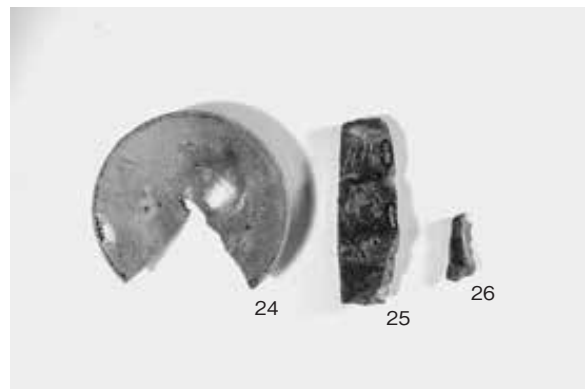
5. T3トレンチ遺構検出状況



6. T5トレンチ遺構確認面検出状況



7. 出土遺物 (1) 1～23



8. 出土遺物 (2) 24～26



## 7. 神久保寺台遺跡 c 地点

### 遺跡の立地と概要

神久保寺台遺跡は市域の北部，神久保地区に所在する。神崎川の下流域で右岸から合流する北の谷津を800mほど遡った標高22m前後の台地上に立地する。地形面は下総下位面に区分される。遺跡の規模は，東西約290m，南北約280mの比較的小規模な区域を包蔵地としている。

本跡区域内の調査は，過去2回行われている。a地点では時期不明であったが塚状遺構と土塁状遺構が確認されている。b地点では弥生時代から奈良・平安時代の竪穴建物跡が検出されている。また，中世の所産と推定された堀状の遺構の一部も検出された。

本地点は a・b両地点のように台地先端部分ではなく，跡域の西側，台地奥の平坦面に位置する。

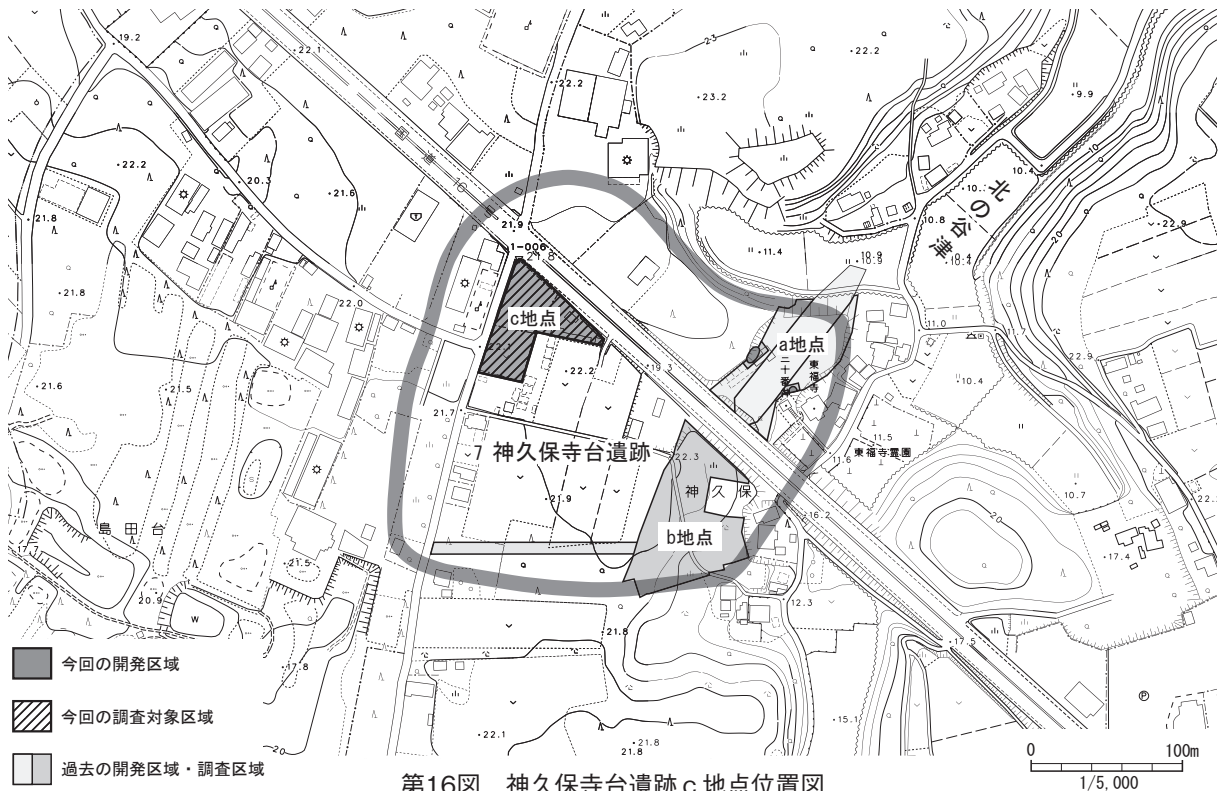
### 調査の方法と経過

発掘調査は調査区を国道16号線側の北側と南側の区域に分割して，それぞれ区域の形状にあわせて任意の方向に10m方眼のグリッドを組んだ。トレンチはそれぞれのグリッドに沿って2m×4mを基本として設定した。掘削は遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後，遺構の検出作業，土層の分析を行った。この調査での標高は，調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点(地点不明)

第6表 神久保寺台遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	65/130	確認	時期不明 塚状遺構1 土塁状遺構1	縄文土器, 砥石	市教委	H8.5	市内H8
b	上層 451/4513 下層 4/4513	確認	弥生時代後期 竪穴建物跡1 古墳時代前期 竪穴建物跡1 平安時代 竪穴建物跡1 中世 堀跡1 時期不明 土坑1	縄文土器片 古墳時代 土師器 平安時代 土師器 中世 陶磁器片	市教委	H10.3	*1

\*1 「千葉県八千代市 不特定遺跡発掘調査報告書1」2002(H14)

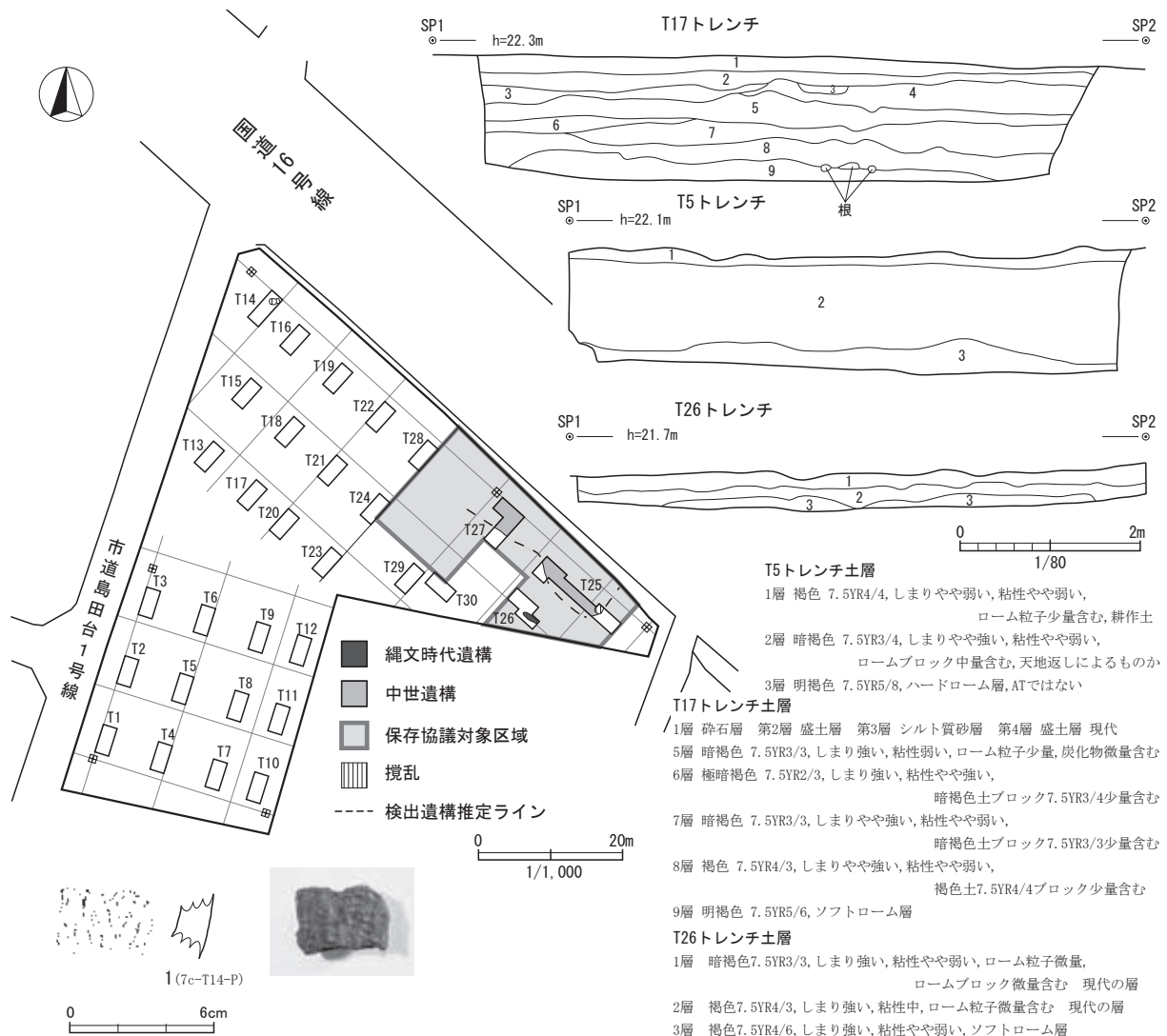


を基準に計測している。

調査は平成29年7月31日から8月9日まで行われた。31日月曜日：杭打ち及びトレンチの設定。8月1日火曜日：重機による表土剥ぎを調査区南側の区域から開始。全域天地返しによる掘削のため、ハードロームで遺構確認を行った。2日水曜日：引き続き北側の区域の表土剥ぎを行った。遺構検出作業継続。3日木曜日：重機による表土除去作業終了。精査継続。精査中検出された落ち込みの精査。いずれも近現代のものと判断。T25トレンチ、T27トレンチで大型の遺構確認。T5トレンチ、T17トレンチで土層実測等記録作業。4日金曜日：落ち込みの精査。T25トレンチ、T27トレンチの遺構は大型の溝状遺構と判断。T26トレンチの土層実測等記録作業。7日月曜日：T26トレンチで縄文の陥穴を確認。調査区全体の測量。8日火曜日：各遺構の精査を終了。埋め戻しを開始。9日水曜日：埋め戻しを終了し、調査を完了した。

### 調査の概要

南側の区域では、現地表面より120cmほどの深さでハードローム層が確認されている。区域全体で天地返しが行われたと判断した。そのためか、遺構は確認できなかった。北側の区域では、高低差がみられた。北西部分は地表に盛土されていたが、下層から自然堆積もみられ、ソフトローム層も確認できた。南東端では30cmほどの盛土の下にソフトローム層が検出された。



第17図 c地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物

発掘調査は調査対象面積 2,900.76㎡に対して、拡張した部分も含めトレンチ30か所、掘削面積は273㎡、全体の9.41%の面積を掘削し調査した。この調査の結果、縄文時代の土坑1基、遺物は出土していないが、調査時において中世の堀跡と推定された溝跡1条、時期不明の土坑1基が検出された。出土遺物はT14トレンチの近現代の攪乱とされた落込みから出土した縄文土器1点のみであった。

調査のまとめ

発掘調査の結果、土坑2基と堀跡1条、縄文土器1点のみであった。保存協議の対象となる区域は、北側区域の南東部296.5㎡であった。今後、他地点で検出された土塁や堀跡との関連が明らかにされることが望まれる。本調査は平成30年2月1日から4月26日まで行われ、報告書は平成30年10月刊行した。

図版7 神久保寺台遺跡c地点



1. 調査区全景



2. T5トレンチ土層



3. T17トレンチ土層



4. T26トレンチ遺構検出状況



5. T27トレンチ遺構検出状況



6. T25トレンチ遺構検出状況



## 8. 持田遺跡 e 地点

### 遺跡の立地と概要

持田遺跡は市域の中央部南側、村上地区に所在する。新川の中流域の右岸の台地上に立地する。この台地は河岸段丘の下総上位面で形成され、標高22mから27mのやや起伏にとんだ複雑な地形を呈している。本跡の規模としては、東西約230mから400m、南北最大約450mのやや大きな規模の区域を包蔵地としている。南側の一部には正覚院館跡(市No201)と重複している。

本跡域内の調査は、過去4回行われている。正覚院館跡と重複するa地点では、古墳時代後期の竪穴建物跡12軒検出されており、また、正覚院館跡の一部とみられる堀跡が検出された。b, c, d地点では近世以降の溝などが見つかっている。出土遺物はわずかであるが、c地点で金属製の香炉2点出土していることが特筆される。調査は遺跡の南側が多く、北側の状況は明らかとなっていなかった。

第7表 持田遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
	98/990.33	確認	古墳時代後期～奈良時代 竪穴建物跡8 中世 堀等3 時期不明 土壌1	縄文土器(中・後期) 古墳時代後期～奈良・平安時代 土師器, 須恵器	市教委	H46	市内H4
a (正覚院 館跡b)	990	本調査	古墳時代後期 竪穴建物跡12 方形周溝状遺構1 中世 堀跡1(正覚院館跡の一部) ピット30, 溝4	古墳時代後期 土師器, 須恵器, 鉄製品, 耳環, 紡錘車, 砥石, 土製勾玉, 環状土製品, 丸玉形土製品, 手捏土器等 中世 陶磁器, 板碑, 景德元宝, 金銅製花瓶等 近世 寛永通宝	調査会	H56~12	*1
b	110/1,588.70	確認	なし	奈良・平安時代 土師器片少量	調査会	H9.3	
c (正覚院 館跡d)	243/1,242.22	確認	近世以降 溝1	縄文土器(早・前期) 古墳時代 土師器 奈良・平安時代 土師器, 須恵器	市教委	H16.3	市内H16
	4/1,242.22	緊急確認	なし	陶器(人骨), 金属器, 須恵器	市教委	H16.7	市内H17
d	100/1,470.14	確認	近世・近代 溝跡2	中近世 陶磁器	市教委	H24.9	市内H25

\*1「平成6年度 八千代市埋蔵文化財調査年報」1995(H7)



第18図 持田遺跡 e 地点位置図

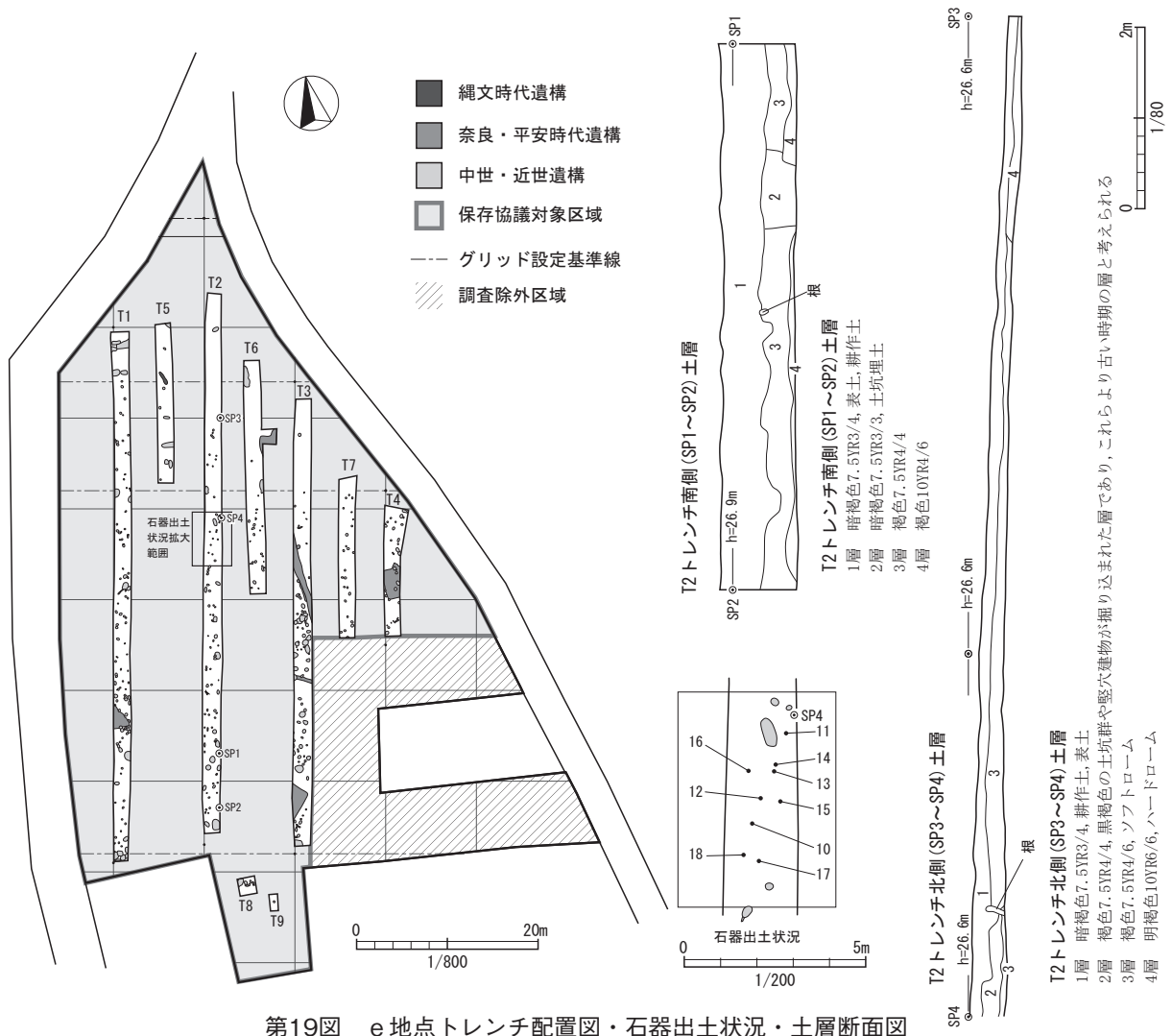
今回の調査地点は本跡中央付近の東側に位置している。新川に流れ込む上相女谷津<sup>かみそうめ</sup>を約500m遡った左岸のさらに小さな谷津の奥に面している。調査区は北東側にやや傾斜する地形を呈している。

調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状を考慮して、1.5m前後の幅のトレンチを概ね南北方向に設定した。T1トレンチからT4トレンチを基本に設定し、追加でT5トレンチからT7トレンチを設けた。最後にT8トレンチ、T9トレンチを設定した。掘削は当初、確認面の深さ確認のため人力により行い、その後、T1トレンチからT7トレンチまでを遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。T8トレンチ、T9トレンチは人力により掘削した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点(地点不明)を基準に計測している。

調査は平成29年8月23日から9月13日まで行われた。23日水曜日：基準杭設定及びT1～T4トレンチ設定。T1トレンチを人力により掘削。24日木曜日：重機による表土撤去開始。T1～T4トレンチ表土除去終了。複数の遺構を確認。25日金曜日：遺構検出作業継続。T5～T7トレンチ追加設定。28日月曜日：T5～T7トレンチ表土除去終了。遺構検出作業継続。29日火曜日：遺構検出作業継続。T2トレンチ土



層分析，写真記録作業。9月1日金曜日：T8トレンチ，T9トレンチ追加設定。人力で掘削。遺構測量開始。4日月曜日：遺構測量継続。5日火曜日：T2トレンチ土層実測。遺構測量継続。6日水曜日：遺構測量継続。7日木曜日：遺構測量継続。T2トレンチでソフトロームを掘り下げ。8日金曜日：遺構測量継続。T2トレンチでハードロームを掘り下げ，終了。13日水曜日：埋め戻しを実施し，調査を完了した。

### 調査の概要

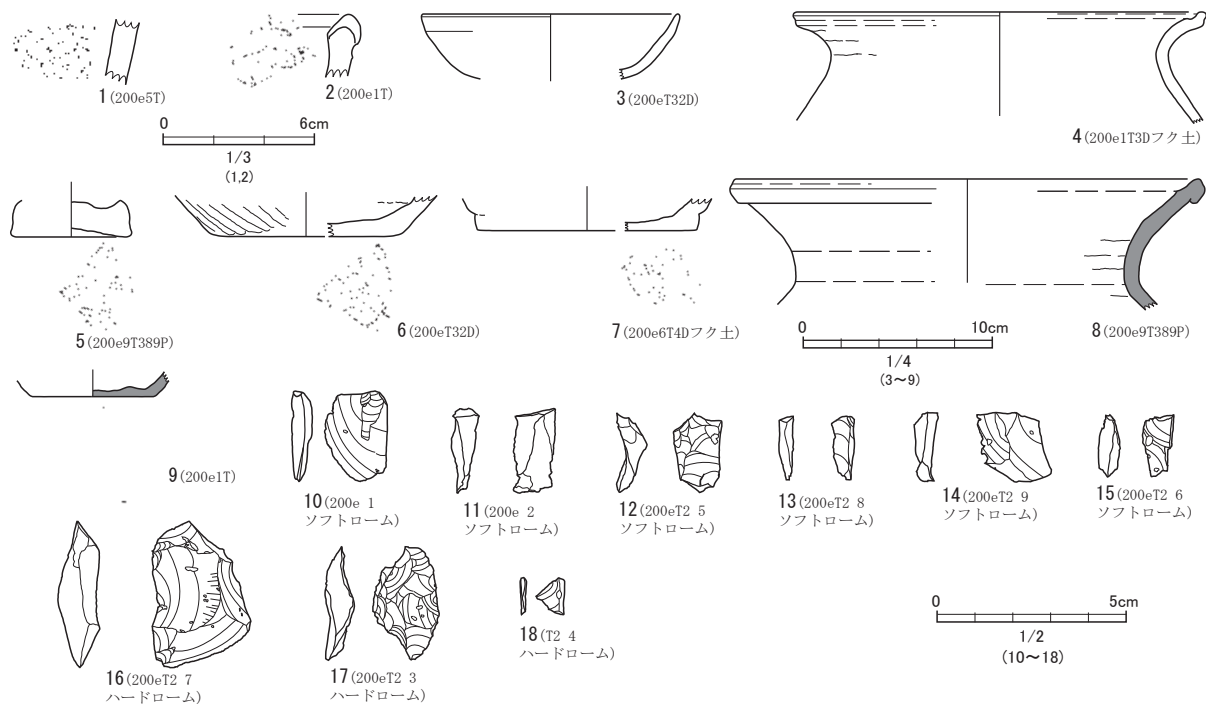
調査区は北東側に緩やかに傾斜しているが，土層も南側で40cm前後の表土(耕作土)の直下にソフトロームが検出され，北側に向かって表土が薄くなり，北端では表土から10cmほどでロームに達した。また，北端部ではハードロームが表土直下に検出されている。いずれの場所でも表土とロームの間に自然堆積土が検出されていない。調査区周辺の谷地形の影響と推測される。

発掘調査は調査対象面積 2,743㎡(公図上の面積)に対して，465㎡の区域を除外して，2,278㎡，トレンチ9か所，掘削面積は387㎡，全体の16.99%の面積を掘削し調査した。

この調査の結果，旧石器時代包蔵地1か所，縄文時代陥穴1基，奈良・平安時代の竪穴建物跡4軒，溝状遺構2条，土坑391基と数多くの遺構が検出された。出土遺物は旧石器時代の石器，縄文土器，奈良・平安時代の土師器，須恵器，陶磁器が回収されている。最も多く出土しているのが，土師器で178点，須恵器22点であった。その他に旧石器のフレイクが9点，陶磁器が6点，土師質土器が1点，縄文土器(前期・中期)2点，礫3点，不明1点であった。総数222点を回収している。

### 調査のまとめ

今回の調査の結果，奈良・平安時代の竪穴建物跡4軒をはじめ，旧石器時代包蔵地，縄文時代の陥穴，時期は明らかではないが，多数の土坑群などが検出された。そのため，保存協議の対象とすべき区域は，調査から除外された区域を除いた調査実施区域全域の2,278㎡とされた。



第20図 持田遺跡 e 地点 出土遺物



図版8 持田遺跡 e 地点



1. 調査区全景



2. T1トレンチ遺構検出状況



3. T3トレンチ遺構検出状況



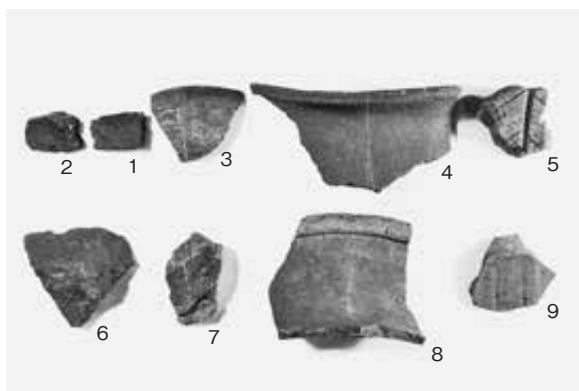
4. T5トレンチ遺構検出状況



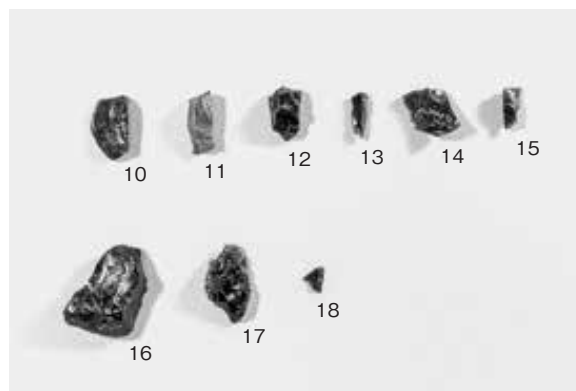
5. T2トレンチ深掘り遺物検出状況



6. T2トレンチ南側土層 (SP1~SP2)



7. 出土遺物 (1)



8. 出土遺物 (2)

## 9. 新林遺跡 h 地点

### 遺跡の立地と概要

新林遺跡は市域の東部南端、上高野地区に所在する。佐倉市との境を流れる高野川(又は小竹川)の上流の上谷津の左岸の標高25~26mの台地平坦面に立地する。遺跡の西側には新川上流域で、沖塚辺田前低地へ流れる黒沢谷津の谷津尻が迫る。地形区分は下総上位面にあたる。

本跡は東西二つの区域に分かれている。現在とは異なるが、昭和58年に確認された時点から二つの区域に分離されていた。本跡の規模は、南北約250m、東西約450mの範囲にある。

本跡の調査は7地点で行われている。西側地区の調査が多く、特にc・d地点の調査で縄文時代前期から中期の堅穴建物跡が13軒検出されている。これらの遺構は黒沢谷津側に面する。今回のh地点は、西側区域の東端にあたる。黒沢谷津からも上谷津側からも離れ、台地の中央平坦部に位置する。

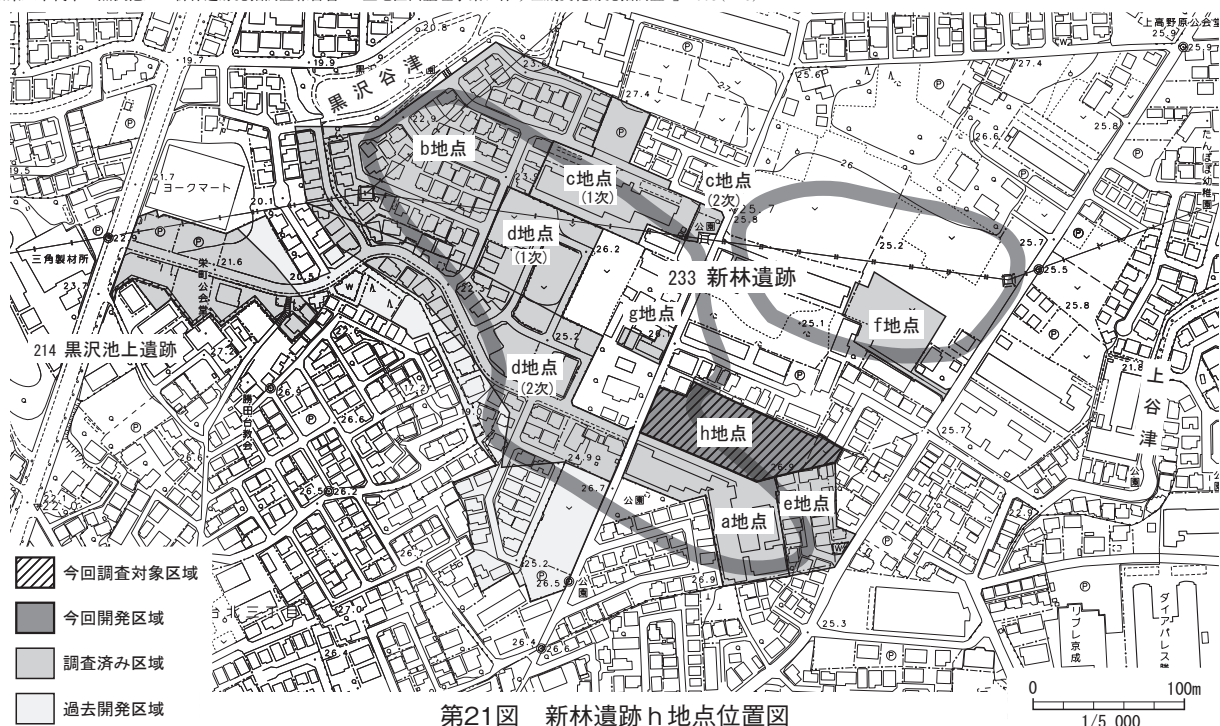
### 調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状にあわせて、任意に基準線を設けた。概ね東西方向の基準線に沿って2m×4

第8表 新林遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	841/5,665.77 本調査 280	確認 本調査	近世 陥穴8, 溝1	なし	調査会	H6.4~	*1
b	1,150/15,500	確認	縄文時代前期 土坑1	縄文土器	市教委	H6.12	市内H6
c	420.5/3,900	1次確認	縄文時代中期 堅穴建物跡2, 土坑42	縄文土器(中期 加曾利E期中心), 打製石斧,	市教委	H9.7	市内H9
	470	1次本調査	時期不明 溝1	石鏃	調査会	H9.9	*2
d	74/722	2次確認	なし	なし	市教委	H10.8	市内H10
	530/5,300	1次確認	なし	なし	市教委	H13.2	市内H13
	780/14,400	2次確認	旧石器時代 ブロック1 縄文時代 堅穴建物跡11, 堅穴状遺構4, 陥穴5, ファイヤービット3, 土坑109	旧石器時代 細石刃 縄文土器(前期中心), 石鏃等, 土製品等	調査会	H13.3	未報告
	2,860 下層 27/2,860	本調査	なし	なし	調査会	H13.7~	*3
e	288/2,068.13	確認	縄文時代 陥穴1	なし	市教委	H13.4	市内H14
f	231	本調査	近世 しし落し穴5, 溝1	なし	市教委	H28.8	市内H29
g	178/2,647.34	確認	なし	なし	市教委	H29.2	市内H29
g	42/411.23	確認	なし	なし	市教委	H29.2	市内H29

\*1「千葉県八千代市 二重堀遺跡・新林遺跡」2007(H19) \*2「千葉県八千代市 新林遺跡c地点発掘調査報告書-共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査-」2007(H19) \*3「千葉県八千代市 黒沢池上・新林遺跡発掘調査報告書 -土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査-」2003(H15)



第21図 新林遺跡 h 地点位置図

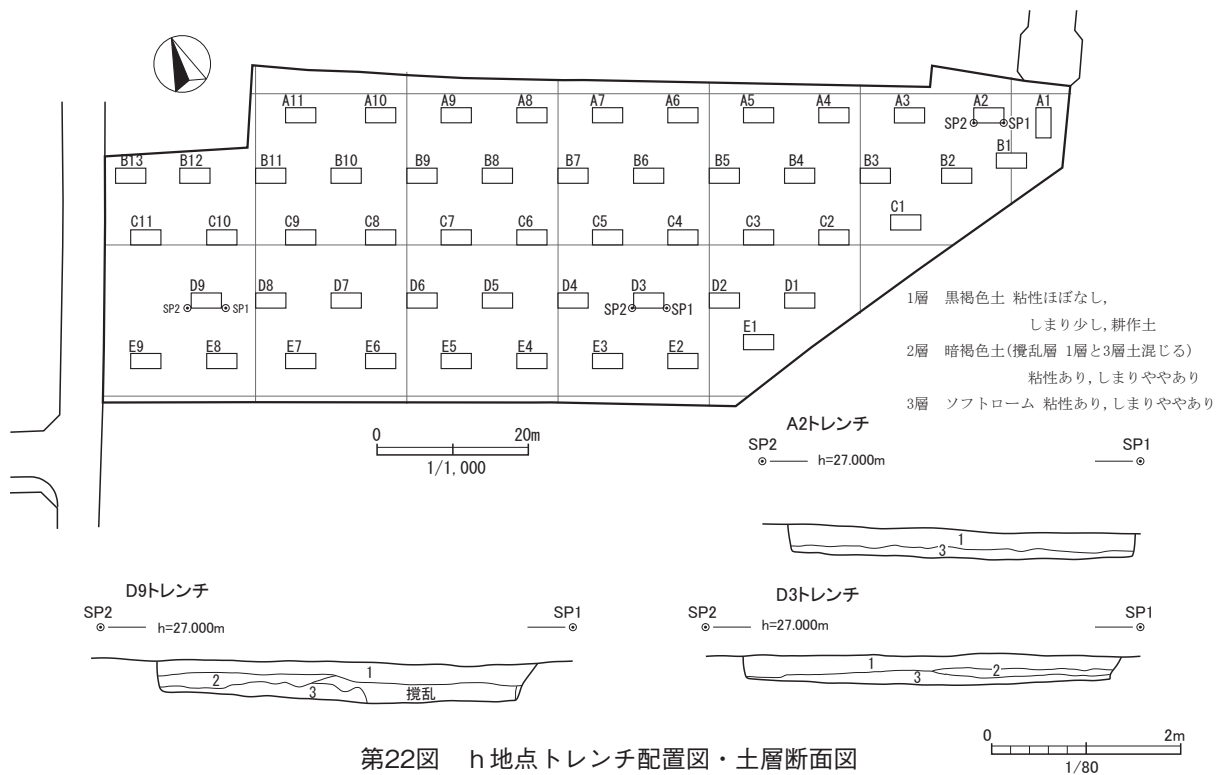
mのトレンチを等間隔に設定することを基本とした。この東西の基準線を5列設け、北側からA, B…Eラインとし、それぞれのラインの東側のトレンチから1, 2…と順にナンバをふり、ラインとナンバーでトレンチの名称とした。一部補足のための追加トレンチ設定で不規則になった。掘削は遺構確認面まで重機で表土を除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。

この調査で標高の測定は、都市再生街区基準補助点(3 A450)h=26.569mを基準に測定している。

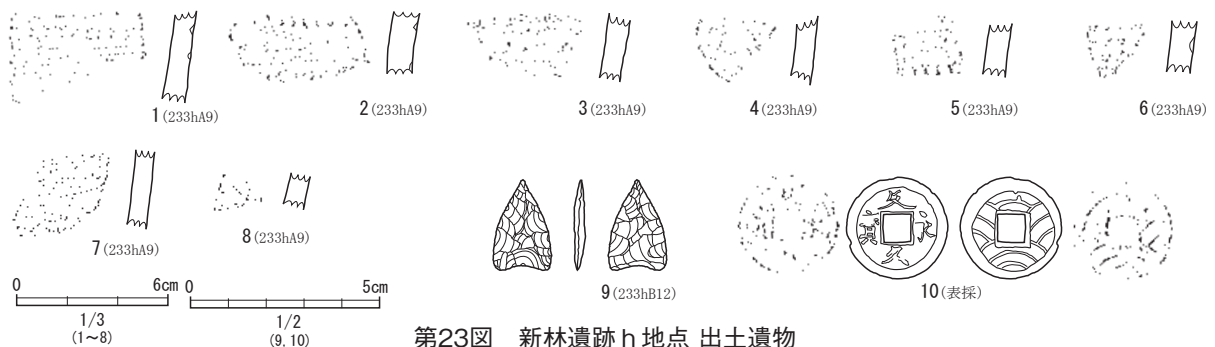
調査は平成29年8月28日から9月8日まで行われた。28日月曜日：機材搬入。トレンチの設定。29日火曜日：トレンチ追加設定。30日水曜日～9月1日金曜日：重機による表土掘削。4日月曜日：遺構確認作業開始。5日火曜日：確認作業継続。D9, D3, A2トレンチ断面土層実測。7日木曜日：確認作業終了。B4トレンチにサブトレンチ掘削。重機による埋め戻し開始。8日金曜日：埋め戻し完了。器材撤収。調査を完了した。

調査の概要

調査区は東側に向かってやや傾斜する地形を呈していた。土層観察によると、地表面下10cmほどでソフトロームが確認された。自然堆積層は部分的に見られるようだが、ほとんど確認されていない。



第22図 h地点トレンチ配置図・土層断面図



第23図 新林遺跡h地点 出土遺物



発掘調査は調査対象面積4,492㎡に対して、トレンチ53か所、掘削面積420㎡、全体の9.35%の面積を掘削し調査した。この調査の結果、遺構は確認できなかった。出土遺物は縄文土器8点、石鏃1点、土師器9点、土師質土器1点、陶磁器13点、銭貨1点、その他に鉄片や礫など16点を回収している。総数49点であった。縄文土器は前期後葉 浮島式土器とみられる。石鏃はチャートで作られていた。銭貨は文久3年に鑄造された文久永寶で「草文」と呼ばれる書体である。

#### 調査のまとめ

この地点の調査では、石鏃や縄文土器、土師器などが検出されているが、遺構は検出されず、保存協議の対象とすべき区域はないと判断された。

#### 図版9 新林遺跡h地点



1. 調査区全景



2. 土層実測作業



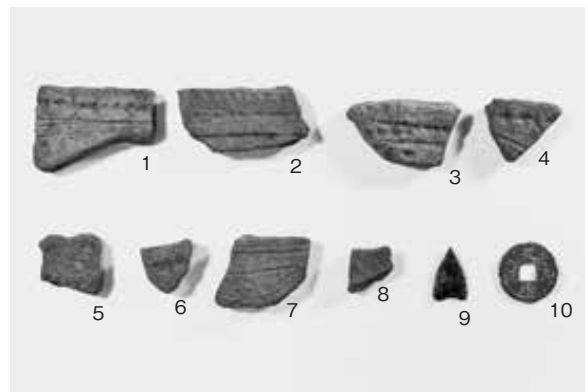
3. D9 トレンチ土層



4. D3 トレンチ土層



5. A11 トレンチ確認面検出状況



6. 出土遺物

## 10. 高津宮ノ前遺跡 b 地点

### 遺跡の立地と概要

高津宮ノ前遺跡は市域の南西部，高津地区に所在する。高津川上流，宮間沢谷津の左岸，標高24～26mの台地平坦面に立地する。地形区分は下総上位面にあたる。本跡の規模は，東西約200mから300m，南北最大約500mの広範な区域を包蔵地としている。

本跡域内の調査は，過去1回行われている。a地点はb地点の西側に隣接した区域で，検出遺構はなく，出土遺物もわずかであった。

今回のb地点も台地の奥，平坦面であった。

### 調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状を考慮して，2m×5mのトレンチを任意に設定した。掘削は遺構確認面を確認するため人力により行い，その後，遺構確認面まで重機で表土を除去した。掘削後，遺構の検出作業，土層の分析を行った。この調査での標高は，調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点(h=27.1m)を基準に計測した。

調査は平成29年9月13日から9月15日まで行われた。13日水曜日：トレンチの設定。人力での掘削開始。14日木曜日：重機による表土除去作業実施。T3トレンチ北面土層実測。15日金曜日：重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。

第9表 高津宮ノ前遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	182/1,892	確認 なし		小片数点	市教委	H27	市内H2

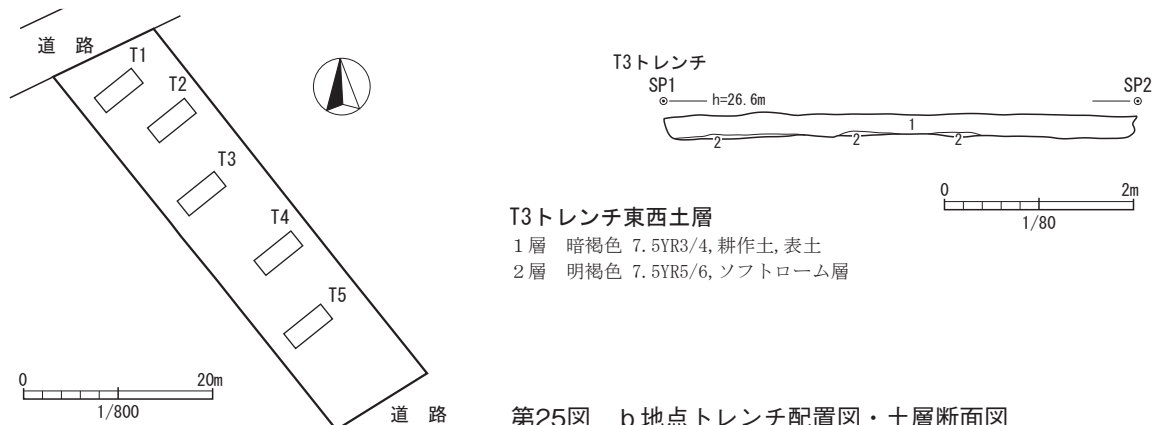


調査の概要

調査区はほぼ平坦な地形を呈していた。土層は地表の耕作土が20~30cmあり、その下にソフトロームが確認された。発掘調査は調査対象面積495㎡に対して、トレンチ5か所、掘削面積50㎡、全体の10.10%の面積を掘削し調査した。この調査の結果、検出遺構はなく、出土遺物は縄文土器1点、土師質土器1点、礫2点、不明3点であった。縄文土器は前期後葉のものか。

調査のまとめ

今回の調査で遺構は検出されず、出土遺物もきわめてわずかであったため、保存協議の対象とすべき区域はないと判断された。



第25図 b地点トレンチ配置図・土層断面図

図版10 高津宮ノ前遺跡b地点



1. トレンチ掘削状況



2. T3トレンチ土層



3. T1トレンチ確認面検出状況



4. T4トレンチ確認面検出状況



## 11. 北裏畑遺跡 h 地点

### 遺跡の立地と概要

北裏畑遺跡は、市域の南部、萱田町地区に所在する。新川の中流域で左岸から流れ込む上の谷津の上流、約400m遡った舌状台地上に立地する。この谷津の北側の台地上には川崎山遺跡(市No.241)が立地し、また、南側の台地上には上の山遺跡(市No.243)、上の山古墳(市No.244)が所在している。

本跡の規模は、北東-南西方向約370m、北西-南東方向の最大幅約280mである。

本跡の調査は、過去7回行われている。いずれの調査も集落などの痕跡は確認されていない。縄文時代の陥穴が散発的に検出されるが、縄文土器そのものの出土はみられず、時期は不明である。それ以外は近世以降の土坑や溝が検出され、カワラケや陶磁器、寛永通宝の出土がある。歴史的な背景としては、江戸時代に成田街道沿いの大和田宿として賑わった街並みの背後に位置している。

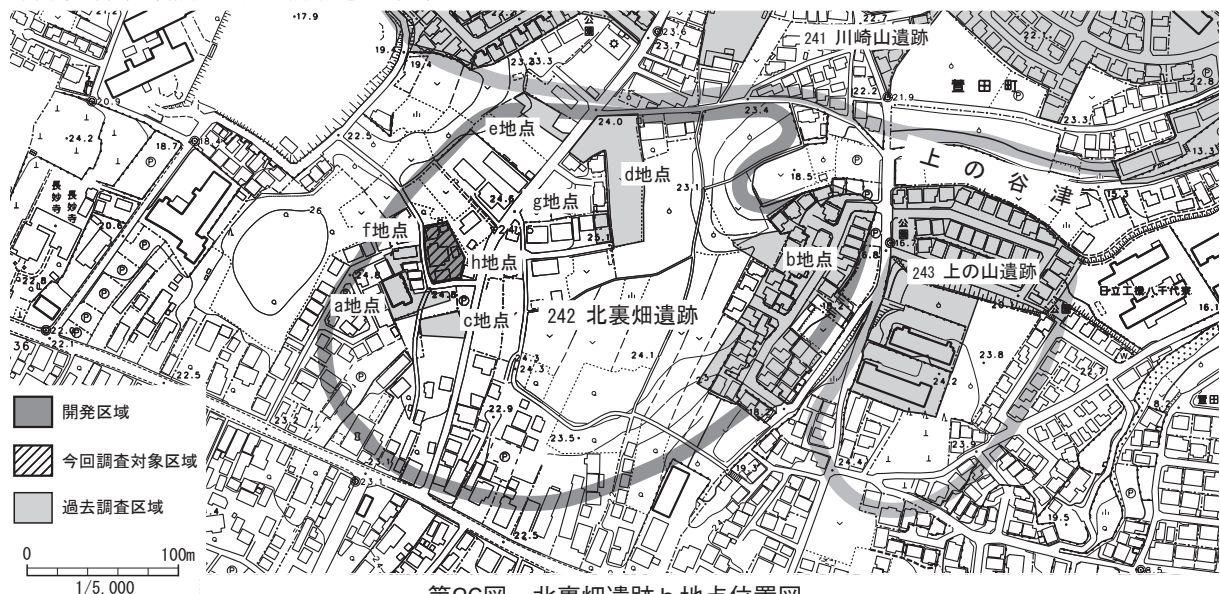
### 調査の方法と経過

発掘調査は区域内に任意の10m方眼のグリッドを組み、2m×5mのトレンチを基本、グリッドに沿うように設定した。掘削は遺構確認面を確認するため人力により行い、その後、遺構確認面まで重機で表土を除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測しているが、直近にある24.8mの地点を26.8mと誤読したためか、地形測量図による現地の地表面の標高が24m台のところ、調査地点の土層断面図の地表面が27mほどになってしまったようだ。

第10表 北裏畑遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	115/710	確認	なし	近世・近代 陶磁器等	市教委	H12.4	市内H13
b	500/5250	確認	縄文時代 陥穴1 近世 土坑1 粘土貼土坑2 時期不明 溝2	近世・近代 陶磁器、瓦片	市教委	H17.11	*1
c	42/421.59	確認	近世・近代 土坑3	なし	市教委	H23.6	市内H24
d	240/2363.25	確認	縄文時代 陥穴1	縄文時代 石鏃 近世 陶器、泥面子	市教委	H24.2	市内H24
e	44/411	確認	近世・近代 溝1	近世 かわらけ	市教委	H25.1	市内H25
f	21.5/284.26	確認	近世 溝1	近世 陶磁器、銭貨	市教委	H26.8	市内H27
g	16/189.95	確認	なし	なし	市教委	H27.3	市内H27

\*1「千葉県八千代市 不特定遺跡発掘調査報告書V」2008(H20)



第26図 北裏畑遺跡 h 地点位置図

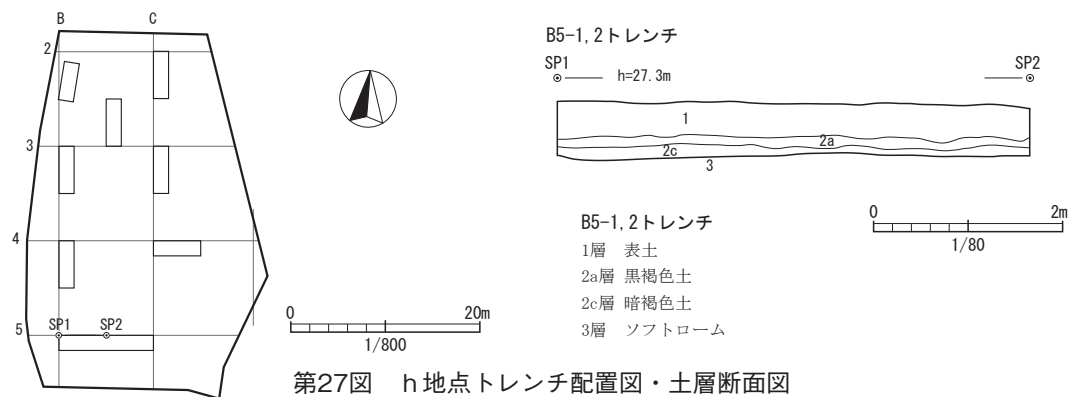
調査は平成30年1月25日から1月29日まで行われた。25日木曜日：トレンチの設定。人力での掘削開始。26日金曜日：重機による表土除去作業実施。遺構等確認の精査。土層断面図実測。29日月曜日：重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。

### 調査の概要

調査区の土層は，地表下約60cmでソフトロームが確認され，厚い表土の下に自然堆積土が確認されている。発掘調査は調査対象面積704.12㎡に対して，トレンチ8か所，掘削面積72㎡，全体の10.23%の面積を掘削し調査した。この調査の結果，遺構・遺物はなかった。

### 調査のまとめ

この調査では，遺構・遺物は検出されず，保存協議の対象とすべき区域はないと判断された。



図版11 北裏畑遺跡h地点



1. 調査区全景



2. トレンチ清掃作業



3. B4-1トレンチ確認面検出状況



4. B5-1,2トレンチ土層



## 12. 高津新山遺跡 e 地点

### 遺跡の立地と概要

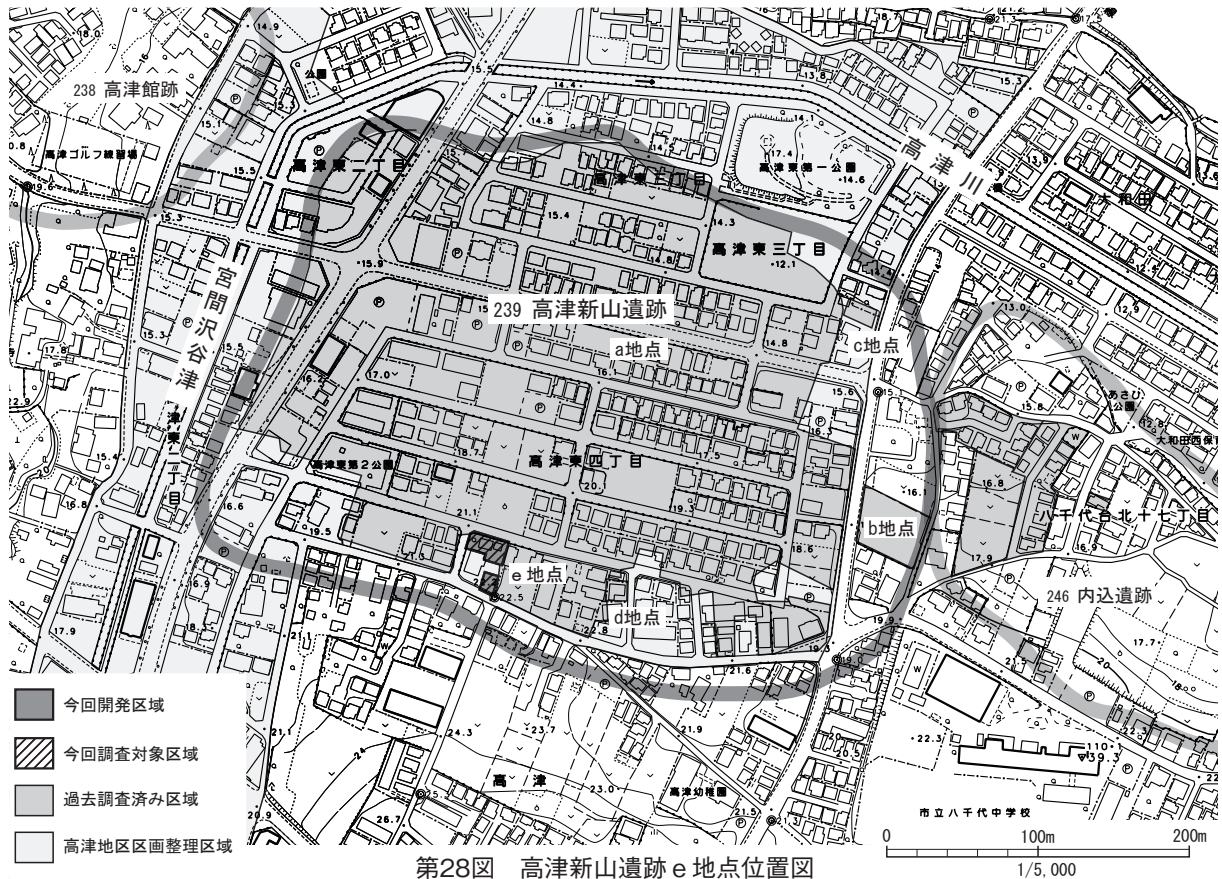
高津新山遺跡は市域南西部の高津地区に所在する。新川の上流域、大和田付近で西側から流れ込む高津川上流の右岸、標高15mから22mの河岸段丘上に立地する。地形面としては千葉段丘面から下総下位面にかけて立地している。遺跡の規模は、東西方向約450m、南北方向約340mの広がりがあるとみられる。

本跡の調査は、過去4回行われている。大規模な区画整理事業に先行して、a地点の調査が行われた。この事業区域に本跡の大半の部分が占められていたが、区画整理の関係で調査区域内に未調査地が残された。この調査の結果、古墳時代から奈良・平安時代の集落、堅穴建物跡や掘立柱建物跡多数が検出されて

第11表 高津新山遺跡の調査

地点	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
	8,180/50,000	1次確認	堅穴建物跡34、掘立柱柱穴列5、土坑92、溝18	旧石器時代 ナイフ形石器、ポイント、黒曜石剥片 縄文土器(前・中・後・晩期) 奈良・平安時代 土師器、須恵器、紡錘車 中近世 陶磁器、銭貨、刀子	市教委	S56.11	*1
a	3,779/26,800	2次確認	堅穴建物跡10、土坑70、溝27、地下式坑1	旧石器時代 剥片 縄文土器(前・中・後期)、石器 奈良・平安時代 土師器、鉄滓、輪羽口 中世 陶器片	市教委	S57.12	*2
	3,350/20,000	3次確認	堅穴建物跡15、土坑36、溝3	縄文土器(前・中・後期)、石鏃 弥生土器 古墳時代(前期) 土師器 奈良・平安時代 土師器	市教委	S58.7	*3
	79,000	本調査	堅穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑その他	縄文土器、古墳~平安 土師器、須恵器他	調査会	S60.4~H1.3	未報告
b	152/1,592.37	確認	近世・近代 溝2	奈良・平安時代 土師器	市教委	H25.11	市内H26
c	16/229.34	確認	近世・近代 溝1	奈良・平安時代 土師器	市教委	H25.11	市内H26
d	16.5/165.44 本調査32.67	確認 本調査	古墳時代 溝1	古墳時代 土師器 奈良・平安時代 土師器、陶器	市教委	H27.5	市内H28

\*1「千葉県八千代市 高津新山遺跡-昭和56年度確認調査の概要-」1982(S57) \*2「千葉県八千代市 高津新山遺跡 II-昭和57年度確認調査の概要-」1983(S58) \*3「千葉県八千代市 高津新山遺跡 III-昭和58年度確認調査の概要-」1984(S59)





いる。また、中世における地下式坑もみられた。出土遺物では、旧石器時代のナイフ形石器をはじめ、縄文土器のほか、古墳時代から奈良・平安時代に至る土師器も多数検出されている。各時代を通じて人々の生活の痕跡がみられた。b地点は区画整理区域から外れていたが、竪穴建物跡などは確認できなかった。c・d地点は区画整理区域内の未調査地であったが、同様に竪穴建物跡などは検出されていない。

今回の調査地点も区画整理区域内の調査時における未調査地の一部で、調査の行われたa地点の南端、台地奥の平坦面に位置する。

### 調査の方法と経過

調査区は南北2か所に分かれていたが、それぞれの地区に1~1.2m×5mのトレンチを基本に任意に設定した。掘削は遺構確認面まで重機で表土を除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。この調査での標高の基準は、調査区付近で都市計画図上の標高の明らかな地点(h=22.5m)を基準に計測した。

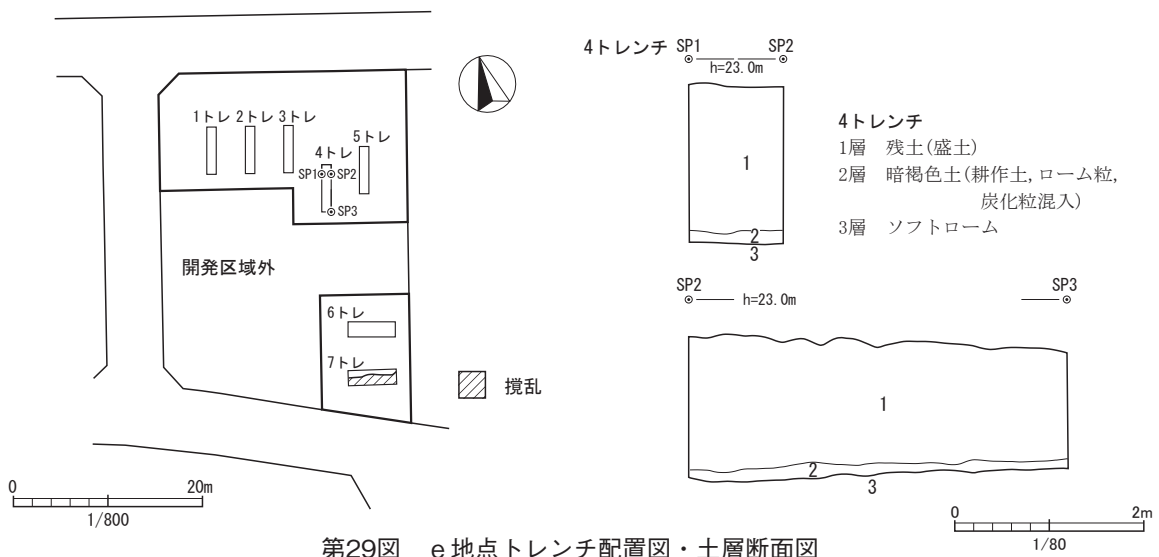
調査は平成30年2月16日から2月22日まで行われた。16日金曜日：トレンチの設定。19日月曜日：重機による表土除去作業開始。遺構等確認作業。20日火曜日：掘削終了。遺構等確認作業。4トレンチ分層・写真撮影。21日水曜日：土層断面図実測。7トレンチの溝状遺構精査。22日木曜日：重機により埋め戻しを行い、調査を完了した。

### 調査の概要

調査区土層は地表以下、厚く160cmほどの盛土が行われていた。盛土の下にソフトロームが確認された。発掘調査は調査対象面積480.43㎡に対して、トレンチ7か所、トレンチ内にサブトレンチ1か所、掘削面積41㎡、全体の8.53%の面積を掘削し調査した。7トレンチで検出され精査した溝状遺構も30cm程の深さであったが、溝の底面の凹凸が激しく人為的な遺構とは判断されなかった。そのため、この調査の結果、遺構・遺物はないこととなった。

### 調査のまとめ

この調査では、遺構・遺物は検出されず、保存協議の対象とすべき区域はないと判断された。



図版12 高津新山遺跡e地点



1. 調査区全景



2. トレンチ掘削作業



3. トレンチ清掃作業



4. 2トレンチ確認面検出状況



5. 4トレンチ確認面検出状況



6. 7トレンチ確認面検出状況



7. サブトレンチ掘削状況



8. 埋め戻し作業

### 13. 新田台遺跡 a 地点

#### 遺跡の立地と概要

新田台遺跡は市域の中央部北西、麦丸地区に所在する。桑納川の中流域で南側から合流する津金谷津を300mほど遡った右岸の台地上に立地する。標高22~23mの台地先端部より内陸にあり、地形区分は下総下位面にあたる。本跡の規模は、北東-南西方向で約380m、北西-南東方向で最大約150mの小規模で細長い区域を包蔵地としている。地形的には遺跡範囲が変則的かもしれない。

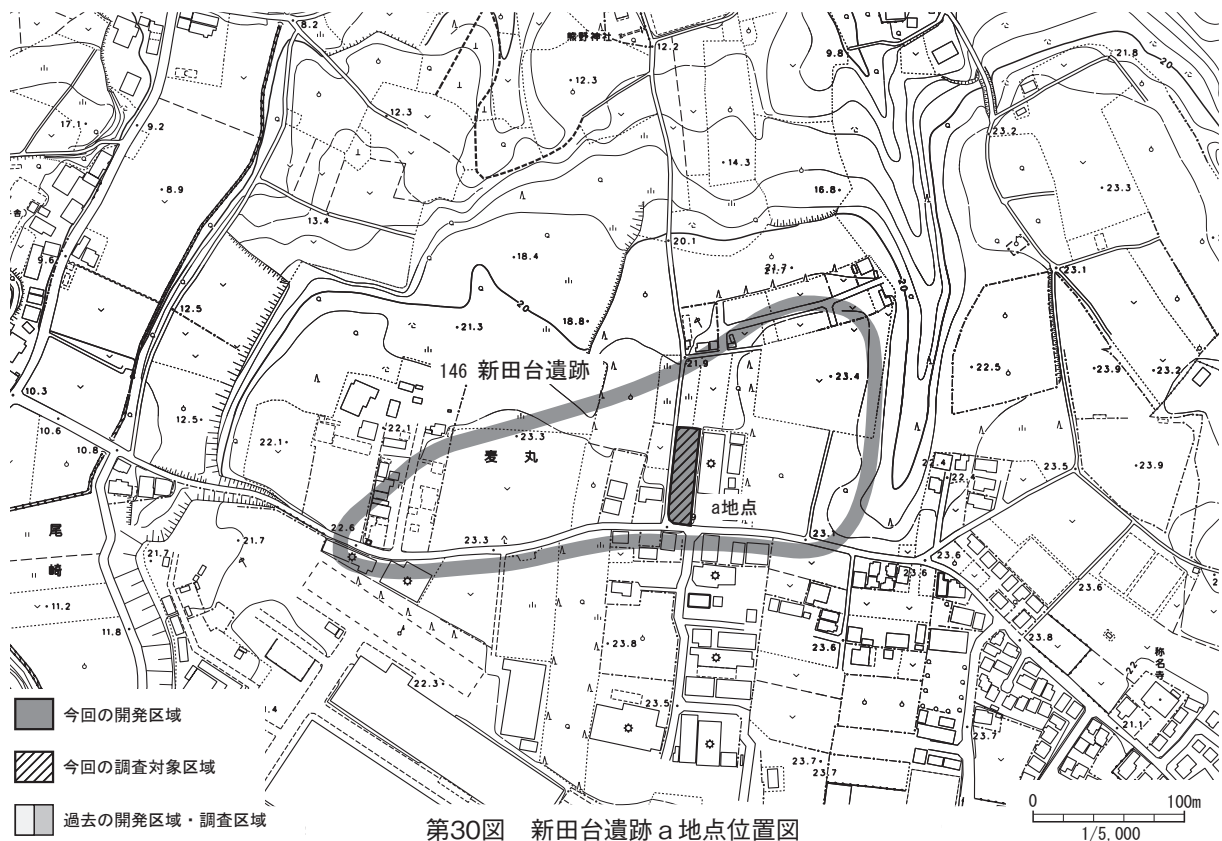
本跡の調査は、今回が初めての調査となった。

調査区域の形状については、確認依頼で提出された図面が概略図であったため、整合性がなかった。そのため、都市計画図から区域の形状を推定復元し第31図のトレンチ配置図を作成している。

#### 調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状にあわせて、10m方眼のグリッドを組み、10m単位に2m×4mのトレンチを基本に設定した。掘削はトレンチ部分のアスファルトを重機で撤去し、遺構確認面まで重機で表土を除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点(h=22.9m)を基準に計測した。

調査は平成30年3月8日から3月15日まで行われた。8日木曜日：重機によりアスファルト撤去。9日金曜日：重機による表土除去作業開始。12日月曜日：表土除去終了。遺構等確認作業。13日火曜日：トレンチ配置測量。6T、9T土層断面図実測。遺構等確認作業。14日水曜日：遺構等確認作業。遺物取り上げ。15日木曜日：重機により埋め戻しを行い、調査を完了した。



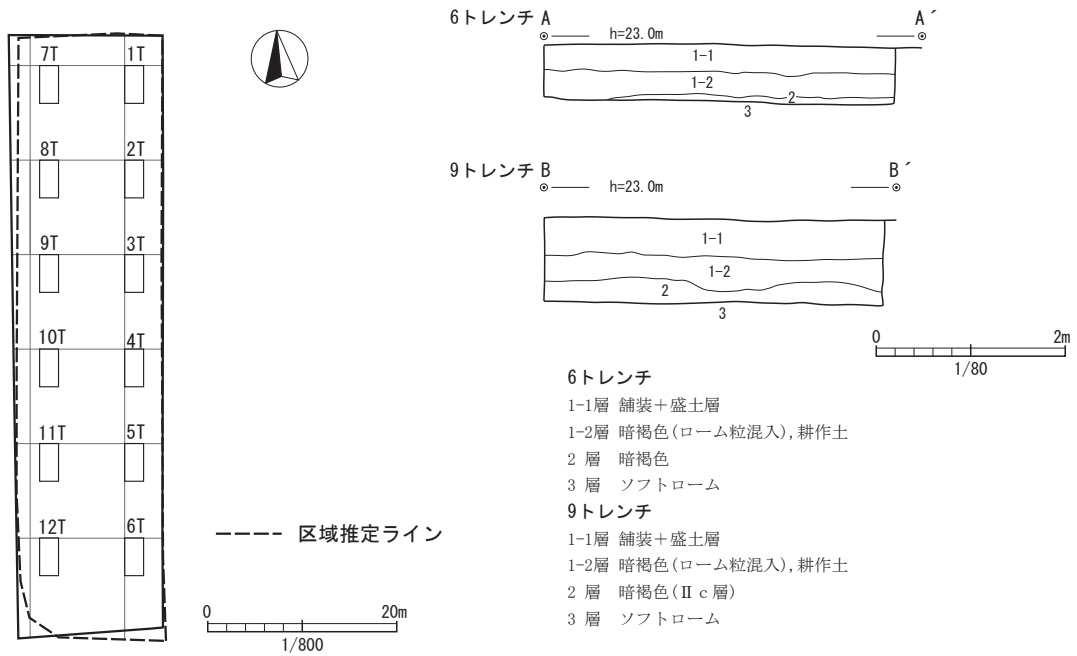


調査の概要

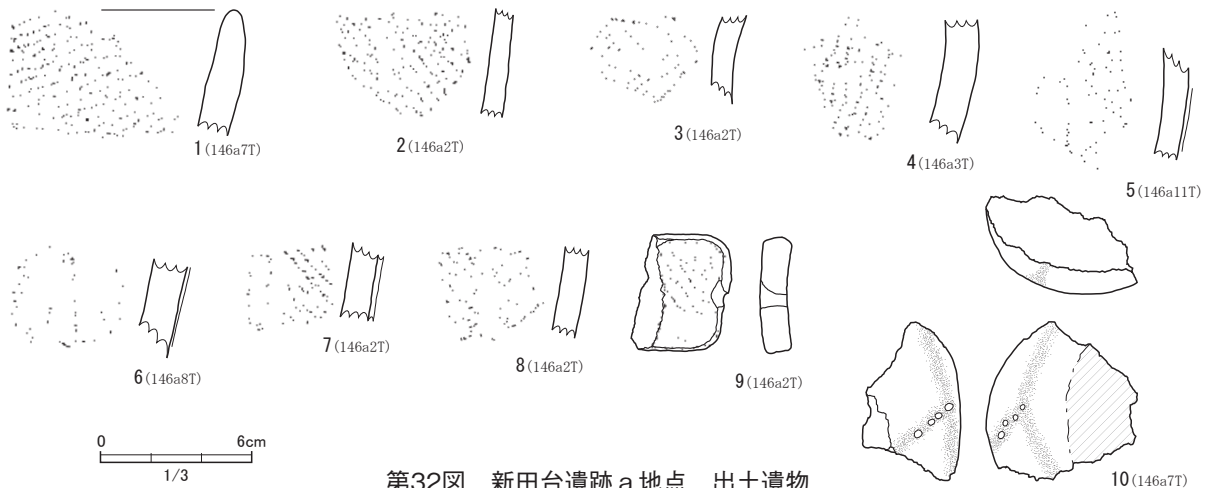
調査区は全体をアスファルト舗装されていた。地表より60~90cmほどで、ソフトロームが確認された。アスファルトの下には旧表土や自然堆積土が確認された。発掘調査は調査対象面積792㎡に対して、トレンチ12か所、掘削面積96㎡、全体の12.12%の面積を掘削し調査した。この調査の結果、遺構は検出されなかったが、出土遺物は縄文土器41点、擦り石の破片1点、礫2点、総数44点が回収されている。縄文土器の大半は中期後半 加曾利E式土器であった。第32図9は同期の土器片錘の破片である。すり石に擦痕のほかに叩き痕もみられた。

調査のまとめ

この調査では、遺構は検出されなかったが、縄文時代中期の土器が比較的多く出土していた。この地点周辺に遺跡の痕跡が想定されるが、今回の地点では、保存協議の対象とすべき区域はないと判断された。



第31図 a地点トレンチ配置図・土層断面図



第32図 新田台遺跡 a地点 出土遺物

図版13 新田台遺跡 a 地点



1. 調査区全景



2. トレンチ掘削作業



3. 遺構検出作業



4. 2 トレンチ確認面検出状況



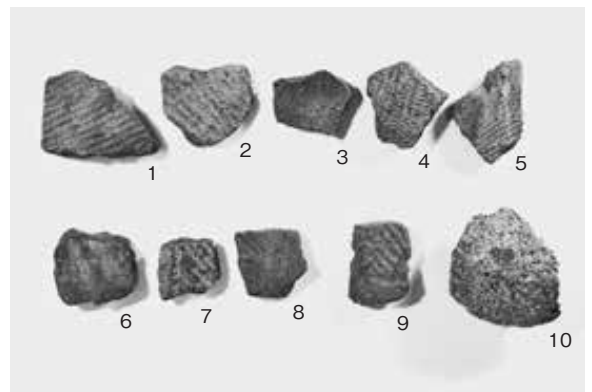
5. 6 トレンチ確認面検出状況



6. 9 トレンチ土層



7. トレンチ掘削状況



8. 出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	ちばげんやちよし しないいせきはつくつちょうさほうこくしょ へいせい30ねんど
書名	千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成30年度
副書名	小板橋遺跡 j 地点, 殿内遺跡 f 地点 (2次), 殿内遺跡 g 地点, 麦丸宮前上遺跡 e 地点, 浅間内遺跡 c 地点, 大山遺跡 c 地点, 神久保寺台遺跡 c 地点, 持田遺跡 e 地点, 新林遺跡 h 地点, 高津宮ノ前遺跡 b 地点, 北裏畑遺跡 h 地点, 高津新山遺跡 e 地点, 新田台遺跡 a 地点
編著者名	秋山利光
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 Tel 047-483-1151(代表)・047(481)0304(直通)
発行年月日	西暦2019(平成31年)3月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> ) 掘削/対象	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
こいたばしいせき 小板橋遺跡 じょーちてん j 地点	お お わ だ あ ぎ ほ り こ め 大和田字堀込256- 4, 12, 13, 14, 15, 16, 17	12221	245	35度 42分 57秒	140度 6分 22秒	20170601~20170606	上層 42/455.12	宅地造成
とのうちいせき 殿内遺跡 えんちてんにじ f 地点2次	むらかみあざとのうち 村上字殿ノ内1571-1, 1572-4, 5, 1575-1	12221	203	35度 43分 43秒	140度 7分 1秒	20170605~20170612	上層 110.5/721.90	建売住宅 建設
とのうちいせき 殿内遺跡 じょーちてん g 地点	むらかみ 村上1610-2, 10	12221	203	35度 43分 44秒	140度 7分 7秒	20171010~20171018	上層 50/420.04	集合住宅 建設
むぎまるみやまかみいせき 麦丸宮前上遺跡 いーちてん e 地点	むぎまるあざみやまえ 麦丸字宮前1395-1, 1398-1の各一部	12221	153	35度 44分 36秒	140度 6分 24秒	20170612~20170628	上層 752/6,301.39	宅地造成
あさまうちいせき 浅間内遺跡 しーちてん c 地点	むらかみみなみ 村上南2丁目21-1	12221	204	35度 43分 37秒	140度 6分 58秒	20170615~20170619	上層 60/563.53	宅地造成
おおやまいせき 大山遺跡 しーちてん c 地点	よなもとあざおおやま 米本字大山2420-1, 2, 2421	12221	103	35度 45分 21秒	140度 7分 10秒	20170713~20170726	上層 176/1,904.04	集合住宅 建設
いものくぼでらだいせき 神久保寺台遺跡 しーちてん c 地点	いものくぼあざきたのやつ 神久保字北ノ谷津53-4, 7, 8, 9, あざでらのだい 字寺ノ台75-29	12221	7	35度 46分 25秒	140度 5分 27秒	20170731~20170809	上層 273/2,900.76	店舗建設
もちだいせき 持田遺跡 いーちてん e 地点	むらかみあざまつば 村上字松葉1201, 1203-1	12221	200	35度 43分 54秒	140度 6分 59秒	20170823~20170913	上層 387/2,278	宅地造成
しんばやしいせき 新林遺跡 えっちてん h 地点	かみこうや 上高野1181-7, 1183-2, 1162-2, 3, 1160-3	12221	233	35度 43分 10秒	140度 7分 51秒	20170828~20170908	上層 420/4,492	宅地造成
たかつみやのまえいせき 高津宮ノ前遺跡 びーちてん b 地点	たかつあざだいもん 高津字大門438	12221	235	35度 42分 52秒	140度 4分 54秒	20170913~20170915	上層 50/495	宅地造成
きたうらはたいせき 北裏畑遺跡 えっちてん h 地点	かやだまあざかやだみち 萱田町字萱田道 826-1, 827-8	12221	242	35度 43分 15秒	140度 6分 22秒	20180125~20180129	上層 72/704.12	建売住宅 建設
たかつしんやまいせき 高津新山遺跡 いーちてん e 地点	たかつひがし 高津東4丁目12-7の一部	12221	239	35度 42分 50秒	140度 5分 32秒	20180216~20180222	上層 41/480.43	建売住宅 建設
しんでんたいせき 新田台遺跡 えーちてん a 地点	むぎまるあざしんでんたい 麦丸字新田台1013-1, 5	12221	146	35度 44分 31秒	140度 5分 51秒	20180308~20180315	上層 96/792	宅地分譲



所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小板橋遺跡 j 地点	集落跡	古墳時代	なし	なし	
殿内遺跡 f 地点2次	集落跡	縄文時代 奈良・平安時代	奈良・平安時代 竪穴建物跡2軒, 土坑3基	奈良・平安時代 土師器, 須 恵器 陶器	181㎡ 保存協議
殿内遺跡 g 地点	集落跡	縄文時代 奈良・平安時代	古墳時代 竪穴建物跡1軒, 土坑 1基, 奈良・平安時代 竪穴建物跡4軒, 溝跡1条, 土坑7基	弥生土器 古墳時代 土師器 奈良・平安時代 土師器, 須 恵器	420.04㎡ 保存協議
麦丸宮前上遺跡 e 地点	包蔵地	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代	縄文時代 竪穴建物跡5軒, 土坑 2基, 竪穴状遺構2か所 弥生時代 竪穴建物跡6軒 古墳時代 竪穴建物跡1軒 奈良・平安時代 竪穴建物跡1軒, 掘立柱建物跡1棟, 土坑20基, 溝跡5条 近現代 溝跡2条	縄文土器 弥生土器 古墳時代 土師器 奈良・平安時代 土師器	3,540㎡ 保存協議
浅間内遺跡 c 地点	集落跡	縄文時代 弥生時代 奈良・平安時代 中近世	なし	なし	
大山遺跡 c 地点	包蔵地	旧石器時代 縄文時代 弥生時代	なし	縄文土器 陶器, 石器, 鉄片	
神久保寺台遺跡 c 地点	包蔵地	奈良・平安時代	縄文時代 土坑1基 中世 堀跡か1条 時期不明 土坑1基	縄文土器	296.5㎡ 保存協議
持田遺跡 e 地点	集落跡	旧石器時代 縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	旧石器時代包蔵地1か所 縄文時代 陥穴1基 奈良・平安時代 竪穴建物跡4軒, 溝跡2条 時期不明 土坑391基	旧石器時代 石器 縄文土器 奈良・平安時代 土師器, 須 恵器 中近世 陶磁器, 土師質土器	2,278㎡ 保存協議
新林遺跡 h 地点	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代	なし	縄文土器, 石器 奈良・平安時代 土師器 近世 陶磁器, 錢貨, 土師質 土器, 鉄片, 礫	
高津宮ノ前遺跡 b 地点	包蔵地	奈良・平安時代	なし	縄文土器 土師質土器	
北裏畑遺跡 h 地点	包蔵地	奈良・平安時代	なし	なし	
高津新山遺跡 e 地点	包蔵地 集落跡	旧石器時代 縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中近世	なし	なし	
新田台遺跡 a 地点	包蔵地	縄文時代 弥生時代 奈良・平安時代	なし	縄文土器, 石器	

要 約	1. 小板橋遺跡 j 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	2. 殿内遺跡 f 地点 2 次	奈良・平安時代 竪穴建物跡 2 軒, 土坑 3 基が検出された。遺物は奈良・平安時代 土師器, 須恵器, 陶器が出土した。
	3. 殿内遺跡 g 地点	古墳時代 竪穴建物跡 1 軒, 土坑 1 基, 奈良・平安時代 竪穴建物跡 4 軒, 溝跡 1 条, 土坑 7 基が検出された。遺物は弥生土器, 古墳時代 土師器, 奈良・平安時代 土師器, 須恵器が出土した。
	4. 麦丸宮前上遺跡 e 地点	縄文時代 竪穴建物跡 5 軒, 土坑 2 基, 竪穴状遺構 2 基, 弥生時代 竪穴建物跡 6 軒, 古墳時代 竪穴建物跡 1 軒, 奈良・平安時代 竪穴建物跡 1 軒, 掘立柱建物跡 1 棟, 土坑 20 基, 溝跡 5 条, 近現代 溝跡 2 条が検出された。遺物は縄文土器, 弥生土器, 古墳時代 土師器, 奈良・平安時代 土師器が出土した。
	5. 浅間内遺跡 c 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	6. 大山遺跡 c 地点	遺構の検出はなかった。遺物は縄文土器, 中世 陶器が出土した。
	7. 神久保寺台遺跡 c 地点	縄文時代 土坑 1 基, 中世 堀跡か 1 条, 時期不明 土坑 1 基が検出された。遺物は縄文土器が出土した。
	8. 持田遺跡 e 地点	旧石器時代包蔵地 1 か所, 縄文時代陥穴 1 基, 奈良・平安時代 竪穴建物跡 4 軒, 溝跡 2 条, 時期不明土坑・ピット 391 基が検出された。遺物は旧石器時代 石器, 縄文土器, 奈良・平安時代 土師器, 須恵器, 中近世 陶磁器が出土した。
	9. 新林遺跡 h 地点	遺構の検出はなかった。遺物は縄文土器, 石器, 奈良・平安時代 土師器, 近世 陶磁器, 銭貨が出土した。
	10. 高津宮ノ前遺跡 b 地点	遺構の検出はなかった。遺物は縄文土器, 土師質土器が出土した。
	11. 北裏畑遺跡 h 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	12. 高津新山遺跡 e 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	13. 新田台遺跡 a 地点	遺構の検出はなかった。遺物は縄文土器, 石器が出土した。

千葉県八千代市

## 市内遺跡発掘調査報告書 平成 30 年度

平成 31 年 3 月 25 日発行

編集・発行 八千代市教育委員会 教育総務課  
千葉県八千代市大和田 138-2  
047(483)1151(代表) 047(481)0304(直通)

印刷 金子印刷企画  
千葉県八千代市萱田 410-1